

目 次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	1 頁
2. 学則変更（収容定員変更の）の必要性	2 頁
(1) 本学設置の目的	2 頁
(2) 本学の沿革	2 頁
(3) 学則変更（収容定員変更）の必要性	6 頁
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	10 頁
(1) 教育課程等の変更内容	10 頁
(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	13 頁
(3) 教員組織の変更内容	14 頁
(4) 大学全体の施設、設備の変更内容	15 頁

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

本件は、本学が大川キャンパス（福岡県大川市榎津137番1）に設置を計画している「福岡薬学部」の薬学科（入学定員120人、収容定員720人）と成田キャンパス（千葉県成田市公津の杜四丁目3番）に設置を計画している「成田保健医療学部」の放射線・情報科学科（入学定員50人、収容定員200人）を届出で設置することに伴い、国際医療福祉大学の収容定員の増加に係る学則変更を行うものである。

上記の届出による設置に伴い、既設の福岡保健医療学部（大川キャンパス）の理学療法学科の入学定員を20人削減し、福岡薬学部の入学定員の一部に振り替え、保健医療学部（大田原キャンパス）の放射線・情報科学科の入学定員を10人削減し、成田保健医療学部放射線・情報科学科の入学定員の一部に振り替える。

なお、収容定員の変更に伴う学則変更の時期は、2020（平成32）年4月1日とする。

学部・学科名	変更前		変更後		増減	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
福岡薬学部 薬学科	0	0	120	720	120	720
計	0	0	120	720	120	720
成田保健医療学部 放射線・情報科学科	0	0	50	200	50	200
計	0	0	50	200	50	200
福岡保健医療学部 理学療法学科	80	320	60	240	△20	△80
計	80	320	60	240	△20	△80
保健医療学部 放射線・情報科学科	120	480	110	440	△10	△40
計	120	480	110	440	△10	△40

大学全体 計	2,005	8,670	2,145	9,470	140	800
--------	-------	-------	-------	-------	-----	-----

--	--	--	--	--	--	--

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

(1) 本学設置の目的

国際医療福祉大学（以下、「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深い教養及び総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を育成するとともに、学術文化の向上と国際社会と保健医療福祉に貢献する有能な人材を育成することを目的とする。

上記目的を達成するため、本学には保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科及び放射線・情報科学科）、医療福祉学部（医療福祉・マネジメント学科）、薬学部（薬学科）【以上、栃木県大田原市】、医学部（医学科）、成田看護学部（看護学科）、成田保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科及び医学検査学科）【以上、千葉県成田市】、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部（心理学科及び医療マネジメント学科）【東京都港区】、小田原保健医療学部（看護学科、理学療法学科及び作業療法学科）【神奈川県小田原市】、福岡看護学部（看護学科）【福岡県福岡市】、福岡保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科及び医学検査学科）【福岡県大川市】を置き、学則に定めている。

併せて、大学院医学研究科、医療福祉学研究科、薬学研究科及び薬科学研究科を設置し、各キャンパスに附属図書館を置く。さらに国際医療福祉総合研究所を置き、附属施設として国際医療福祉大学病院（栃木県那須塩原市）、国際医療福祉大学塩谷病院（栃木県矢板市）、国際医療福祉大学市川病院（千葉県市川市）、国際医療福祉大学三田病院（東京都港区）、国際医療福祉大学熱海病院（静岡県熱海市）、国際医療福祉大学クリニック（栃木県大田原市）、介護老人保健施設マロニエ苑（栃木県那須塩原市）、にしなすの総合在宅ケアセンター（栃木県那須塩原市）及び塩谷看護専門学校を設け、地域の医療福祉に貢献し、かつ学生の臨床実習の中心として機能している。

(2) 本学の沿革

本学は、栃木県大田原市に1995（平成7）年4月、ヘルス・プロフェッションの領域を網羅した4年制の総合大学として誕生した大学である。開学以来、看護師、保健師、助産師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療放射線技師、臨床検査技師、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、診療情報管理士など23,000人を超える医療福祉専門職が社会に巣立っている。

本学の基本理念は次の3つに要約される。

- ① 人間中心の大学であること
- ② 社会に開かれた大学であること
- ③ 国際性を目指した大学であること

また、教育理念として「人間形成」、「専門性」、「学際性」、「情報科学技術」、「国際性」、「自由な発想」、「新しい大学運営」の7つを掲げ、21世紀の高齢化社会を踏まえて、高度で専門的な知識を有し、かつ総合的に医療福祉を把握しうる専門職の育成を目指して開学した。

当初は保健学部5学科(看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚障害学科、放射線・情報科学科)でスタートしたが、その後、組織を拡充しながら教育研究機能の充実を図ってきたところである。2016(平成28)年4月に、千葉県成田市に成田看護学部(看護学科)及び成田保健医療学部(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科)からなる成田キャンパスを開設し、2017(平成29)年4月には、当該キャンパスに首都圏では43年ぶりとなる医学部(医学科)を開設した。2020(平成32)年に開設予定の国際医療福祉大学成田病院は、世界基準のハブ病院をめざす。また、2018(平成30)年4月には、本学6番目のキャンパスとして、東京都港区に赤坂キャンパスを開設し、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部(心理学科、医療マネジメント学科)を設置した。現在、6つのキャンパスに10学部24学科と大学院を設置する医療福祉の総合大学として、医療福祉分野の人材育成に努めている。

本学の学部の沿革は以下のとおり。

- 1995(平成7)年 4月 国際医療福祉大学開学・保健学部開設(大田原キャンパス)
- 1997(平成9)年 4月 医療福祉学部(医療経営管理学科、医療福祉学科)開設
(大田原キャンパス)
- 2002(平成14)年 4月 保健学部視機能療法学科および医療福祉学部医療福祉学科
介護福祉士コース開設
- 2005(平成17)年 4月 薬学部4年制(薬学科)開設(大田原キャンパス)
リハビリテーション学部(理学療法学科、作業療法学科)
開設(大川キャンパス)
- 2006(平成18)年 4月 薬学部を6年制に移行。小田原保健医療学部(看護学科、理
学療法学科、作業療法学科)開設(小田原キャンパス)
- 2007(平成19)年 4月 保健学部を保健医療学部に、リハビリテーション学部を福
岡リハビリテーション学部に改称
福岡リハビリテーション学部言語聴覚学科開設
福岡リハビリテーション学部理学療法学科収容定員増(160
→320)
- 2009(平成21)年 4月 福岡看護学部(看護学科)(福岡天神キャンパス)開設
- 2013(平成25)年 4月 福岡リハビリテーション学部を福岡保健医療学部に改称

福岡保健医療学部にて医学検査学科開設
福岡看護学部を福岡市早良区のシーサイドももち地区に移
転（福岡キャンパス）

- 2015(平成 27)年 4月 小田原保健医療学部看護学科収容定員増(200→320)
2016(平成 28)年 4月 成田看護学部・成田保健医療学部開設（成田キャンパス）
福岡看護学部看護学科収容定員増(320→400)
2017(平成 29)年 4月 医学部開設（成田キャンパス）

保健医療学部看護学科収容定員増(400→460)、理学療法学
科収容定員増(320→400)、視機能療法学科収容定員増(160
→200)、放射線・情報科学科収容定員増(400→480)

小田原保健医療学部理学療法学科収容定員増(160→200)

- 2018(平成 30)年 4月 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部開設(東京赤坂キャン
パス)

一方で、本学は2017(平成 29)年4月に医学部を開設したが、それ以前の医学部を持
たない段階から、附属病院を逐次整備してきた。2002(平成 14)年7月に国際医療福
祉大学附属熱海病院（静岡県熱海市）を、2005(平成 17)年3月に国際医療福祉大学
附属三田病院（東京都港区）をそれぞれ開設した。2007（平成 19）年2月に国際医療
福祉病院（栃木県那須塩原市）を本学附属病院とし、国際医療福祉大学病院とした。
併せて国際医療福祉大学附属熱海病院を国際医療福祉大学熱海病院に、国際医療福祉
大学附属三田病院を国際医療福祉大学三田病院にそれぞれ改称し、同時に介護老人保
健施設マロニエ苑とにすの総合在宅ケアセンターを本学附属施設とした。2009
（平成 21）年4月に国際医療福祉大学塩谷病院（栃木県矢板市）を開設した。
2017(平成 29)年9月に化学療法研究所附属病院を本学附属病院とし、国際医療福祉大
学市川病院に改称した。2020(平成 32)年4月には、千葉県成田市に6つ目の附属病院
となる国際医療福祉大学成田病院を開設し、「世界基準のハブ病院」をめざす。

また、上記附属病院に加え、臨床医学研究センターという位置づけの関連病院・施設
を数多く配置し、学生の臨床実習を行っている。本学とともにこれらの病院・施設も同
じ意識を持って「チーム医療・チームケア」の教育を実践するなど、緊密に連携してい
る。こうした臨床に則した姿勢が社会から評価され、本学の卒業生の就職率は全学科毎
年ほぼ100%であるとともに、大学就職ランキングでも全国の私立大学（医療系）にお
いて、2010(平成 22)年度～2013(平成 25)年度の4か年連続就職率第1位、2014(平成

26)年度就職率第2位というように上位にランクイン（サンデー毎日 2013.7.28号及び2015.7.26号）している。

本学は、国際的センスを備え、いかなる国の人々とも伸び伸びと協働できる真の国際人を育成する「国際性を目指した大学」を基本理念の一つとしており、留学生の積極的な受け入れの他、国際貢献できる医療福祉専門職の育成を視野に入れ、韓国・中国・台湾・ベトナム・タイ・オーストラリアにおける学生の海外研修を毎年行ってきた。研修先として2013(平成25)年度からはシンガポール、2014(平成26)年度からはミャンマー、2016(平成28)年度からは英国とラオス、2017(平成29)年度からはインドネシア、カンボジア、フィリピン、マレーシアが加わり、今後も更なる拡大を図ることとしている。

また、開学以降長年にわたり、中国やベトナムを対象とした医療福祉分野での人材育成に貢献してきており、中国リハビリテーション研究センターとは本学教員の派遣や留学生の受入、ベトナム南部の拠点病院である国立チョーライ病院とは、身体障害者支援センター設立への支援や、研修医の受入等を通じて、密接な協力関係を構築してきた。

2018(平成30)年10月には、本学とチョーライ病院と共同で、同院の隣接地に、ベトナム初の健診専門施設である「ドック健診センター（HEC I）」を開設した。

更に、アジア諸国からフルスカラーシップによる奨学生の受入を毎年実施してきたが、近年では、ミャンマーからの受入を積極的に行っており、2013(平成25)年度3名、2014(平成26)年度4名、2015(平成27)年度5名、2016(平成28)年度2名を本学大学院において受け入れ、2017(平成29)年度は、2名を学部で受け入れ、卒業・修了後は現地においてそれぞれの分野におけるリーダーとしての活躍が期待される。

上記ミャンマーのほか、2016(平成28)年度は、ベトナムから2名、モンゴルから1名、2017(平成29)年度は、ベトナムから2名、モンゴルから1名を受入れた。

2017(平成29)年4月開設の医学部では、定員140人のうち20人を留学生枠としてその一部は海外から政府推薦や成績上位の者を医学部奨学留学生として受け入れている。2017(平成29)年度は13名、2018(平成30)年度は16名の奨学生を受け入れた。これらの奨学生には、生活費や授業料など1人当たり6年間総額3000万円の奨学金を供与している。将来彼らが医療分野におけるリーダーとして母国に貢献することを期待している。

この他、2013(平成25)年度に学術交流協定を締結したミャンマーの医療系3大学と連携した国際医療シンポジウムの開催や、ベトナムやミャンマーにおける医療環境整備や医療福祉分野での人材育成に係る新たな支援等の準備を進めるなど、多彩な活動を展開している。

(3) 学則変更（収容定員変更）の必要性

① 福岡薬学部設置に係る学則変更（収容定員変更）の必要性

ア 福岡県及び近隣の薬学部設置の状況

福岡薬学部は、本学の大川キャンパス（福岡県大川市）に設置を計画している。

福岡県内には、3つの薬学部（九州大学、第一薬科大学、福岡大学）があるが、その所在地は、いずれも福岡市内であり、福岡市に集積している。

大川市を中心とした福岡県南部や、隣接する熊本県北地域および佐賀県には薬学部を設置している国公立大学はなく、薬学部は地域的に偏在している状況である。

私立薬科大学協会発行の「日本私立薬科大学協会だより」には、毎年「私立薬科大学（薬学部）在學生（3年生）出身校都道府県別調 6年制」という調査の結果が公表されている。これによると2018年度（大部分が2016年度入学生）の全国の私立薬科大学（薬学部）における3年生は、福岡県の高等学校の出身者が362人であることが示されている。このうち、福岡県外の私立薬科大学（薬学部）に在籍している学生は162人（44.8%）である。また、同年度における佐賀県（佐賀県には私立薬科大学（薬学部）がない）の高等学校出身者92人のうち、福岡県内の私立薬科大学（薬学部）の在籍者が30人（32.6%）、それ以外の都道府県の私立薬科大学（薬学部）の在籍者が62人（67.4%）であった。62人のうち、九州以外の都道府県の私立薬科大学（薬学部）に在籍する学生は27人（29.3%）である。平成29年度以前4年間も同様の傾向を示しており、多くの学生は自宅から遠く離れた私立薬科大学（薬学部）で学んでいる状況が続いていることを示している。このような学生が地域で学ぶことができるための受け皿として福岡薬学部の設立は意義あるものであると考えられる。【資料5：私立薬科大学（薬学部）在學生（3年生）出身校都道府県別調 6年制（抜粋）】

イ 福岡薬学部周辺地域（福岡県、佐賀県、熊本県）の薬剤師数の状況

また、福岡薬学部周辺地域（福岡県、佐賀県、熊本県）の薬剤師数の現状について、日本医師会が提供しているwebサイトであるJMAP（地域医療情報システム）で調べたところ、2015年度の都道府県別人口10万人あたりの薬剤師数は、福

岡県が 121.1 人（全国第 8 位）、周辺の佐賀県が 140.1 人（全国第 3 位）、熊本県が 129.0 人（全国第 6 位）となっている。

全国平均が 104.3 人であり、県単位で数字を見るとすでに充足しているように見えるが、これを細かく地域的に見るとかなりの地域差があり、福岡県大川市を中心とする福岡県南部（筑後地域）およびその周辺地域（熊本県県北地域や佐賀県）の市町村においては、薬剤師が不足している地域が多く見られる。

大川市の周辺及び大川キャンパスへの通学者の多い西鉄大牟田線の沿線でも、大川市 86.1 人、柳川市 106.2 人、みやま市 89.1 人、八女市 100.9 人、小郡市 96.6 人、筑紫野市 114.8 人、春日市 98.4 人、太宰府市 102.5 人といった状況であり、福岡県内では、福岡市や北九州市、久留米市、大牟田市などの都市部に薬剤師が集中している傾向にある。佐賀県においても大川キャンパスへの通学者の多い地域では、基山町 80.0 人、上峰町 64.6 人など全国平均及び佐賀県の平均を大きく下回っている例が見られる。また、熊本県においても大川キャンパスへの通学者の多い玉東町 19 人、南関町 30.7 人、長洲町 37.8 人、和水町 39.3 人など、全国平均及び熊本県の平均を下回っている例が見られる。【資料 6：福岡、佐賀、熊本各県の市区町村別薬剤師数】

ウ 大川市の支援

福岡薬学部の設置に当たっては、大川市から補助金や用地の提供などの支援を受けて行うものである。大川市と本学は、2018(平成 30)年 2 月に薬学部の設置に関する基本協定を締結しており、5 億円を上限とする市の補助金や無償提供される閉校予定の中学校跡地を施設用地として活用する。

大川市としては、薬学部がある大学が福岡市に集積していること、県内では薬剤師が不足しており、特に大川市を含む県南地区の病院や薬局でその傾向が顕著であるとみて、薬学部の設置を要望していたものであり、薬学部の設置により、6 年間で大川に 720 人の学生が増えることから、町の活性化にも繋がるものと期待している。【資料 7：大川市と学校法人国際医療福祉大学との薬学部設置に関する基本協定書】

このように、福岡薬学部が育成する人材は、社会的な人材需要に対応するものであり、これまで既設の薬学部（大田原キャンパス）での薬学教育の経験を踏まえた人材育成と教育研究を通じ、本学を支援いただく大川市をはじめとする地域への貢献を果たし、期待に応えたいと考えている。

エ 福岡保健医療学部理学療法学科の入学定員の削減について

福岡薬学部の設置に当たっては、福岡保健医療学部理学療法学科の入学定員を

20 人削減し、福岡薬学部の入学定員の一部に振り替える。

福岡保健医療学部理学療法学科は、2005(平成 17)年度に入学定員 40 人(収容定員 160 人)で開設した。その後、2007(平成 19)年度に入学定員を 80 人(収容定員 320 人)に増員し、現在に至っている。

開設当初は、九州で唯一の理学療法士を養成する私立大学であったが、その後養成校も増加し、2019(平成 31)年度では、本学の他に福岡県に 3 校、隣接する佐賀県に 1 校、熊本県に 2 校で理学療法士の養成を行うこととなる。

本学科では、入学定員を下回ったことはないが、近隣の養成施設の募集状況を考慮すると今後の学生募集は、非常に厳しいと判断せざるを得ない状況にある。

上記の背景もあり、入学定員を 20 名削減することとした。これにより、入学者の質を確保するとともに、少数化することのメリットを活かしながら教育にあたり質の高い理学療法士の養成に努めたい。

② 成田保健医療学部放射線・情報科学科の設置に係る学則変更（収容定員変更）の必要性

ア 千葉県及び関東地方の診療放射線技師養成施設の現状

2019 年 3 月現在、全国には診療放射線技師養成施設として文部科学大臣指定校（国公立大学 14 校、私立大学 21 校）、厚生労働大臣指定校（国立 1 校、私立 14 校）があり、2019 年度開設予定校を含めた入学定員は 3,200 人である。

多くの大学や専門学校は大都市圏に設置されており、地域偏在となっている。関東地方においても同様で、千葉県を除く各都県に診療放射線技師の養成校が複数存在するがその多くは都内にある。東京圏における診療放射線技師養成校は、埼玉県 1 校（大学 1）、東京都 9 校（大学 4、専門学校 5）、神奈川県 1 校（大学 1）の計 11 校で入学定員は 819 人となっている。

千葉県は、人口 620 万人以上を有し、47 都道府県中第 6 位であるが、県内に診療放射線技師の養成校は存在しない。千葉県内の希望者は、東京都内の学校に通うか、自宅から遠く離れた他県の大学等で学ばざるを得ない状況にあるといえる。

このような学生が、千葉県内の交通至便な成田市で学べることは、有意義であり、また、成田保健医療学部放射線・情報科学科の設置をもって地域医療に貢献することが本学の使命でもあると考えている。【資料 8：診療放射線技師養成校及び入学定員（関東地区）】

イ 成田保健医療学部放射線・情報科学科を設置する千葉県の診療放射線技師数の現状・診療放射線技師に対する需要

1) 千葉県の人口 10 万人あたりの診療放射線技師数は 36.1 人で、全国平均 42.8 人、東京都 43.2 人に対して少ない状況にある。その他の東京圏では、埼玉県 33.4 人、神奈川県 34.5 人となっており、東京都を除く 3 県は全国的に診療放射線技師数が少ない状況にある。なお、人口 10 万人あたりの診療放射線技師数の全国ワースト 3 がこの 3 県である。(参照：平成 29 年医療施設（静態・動態）調査（厚生労働省）)

2) また、千葉県の求人数は 168 人（求人件数：86 件）で全国の求人数（3,552 人）の 4.7% を占め、東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の求人数は 1,014 人（求人件数：506 件）と全国の求人数の 28.5% を占めており、診療放射線技師の求人は東京圏に集中している。(参照：第 63 回全国診療放射線技師教育施設協議会)

以上のことから、東京圏における診療放射線技師の需要は高いことが推測できる。【資料 9：都道府県別診療放射線技師 人口 10 万人対比表】

ウ 上記のとおり、千葉県は、人口当たりの診療放射線技師数が全国最低水準（47 都道府県中 45 位）にあるにもかかわらず、診療放射線技師養成校は存在しない。

本学成田保健医療学部放射線・情報科学科の開設は、このような千葉県の状況や診療放射線技師の人材需要に応えるものであり、社会的、地域的に意義のある取組みであると考えている。

なお、本学科の設置にあたり、一般社団法人千葉県診療放射線技師会からも要望書をいただいている。【資料 10：一般社団法人千葉県診療放射線技師会からの要望書】

本学は、1997 年度に開設以来、診療放射線技師を育成する教育を実践しており、卒業生は 2,200 人にのぼる。就職率もほぼ 100% を維持している。

このような、大田原キャンパスの放射線・情報科学科で培った 20 有余年の実績を基に千葉県の成田キャンパスに新たに放射線・情報科学科を開設し、最先端医療に対応できる、また、地域医療や国際的にも貢献できる診療放射線技師を養成していきたい。

エ 保健医療学部放射線・情報科学科（大田原キャンパス）の入学定員削減について

成田保健医療学部放射線・情報科学科の設置に当たっては、大田原キャンパスに設置している保健医療学部放射線・情報科学科の入学定員を 10 人削減し、成田保健医療学部放射線・情報科学科の入学定員の一部に振り替える。

既設の保健医療学部放射線・情報科学科の千葉県に所在する出身校からの志願者・入学者の最近の 4 年間の平均は、志願者は 30 人、入学者は 4 人となっている。

また、全体の志願者数の推移を見ると 2015 年度 897 人、2016 年度 833 人、2017 年度 699 人、2018 年度 619 人と減少傾向にある。

上記の状況を考慮し、既設の保健医療学部放射線・情報科学科の入学定員を10名削減することとした。少数の削減であるが、これにより、入学者の質を確保して、質の高い診療放射線技師の養成に努めたい。

3. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程等の変更内容

(福岡薬学部)

福岡薬学部では、大田原キャンパスの薬学部と同様のカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)およびディプロマポリシー(学位授与の方針)に基づいて教育を行うことを基本としている。

従って、基本的には、大田原キャンパスの薬学部と同様の教育課程で編成するが、福岡薬学部は、九州の福岡県に設置することから、地域の特性等を考慮し、以下のとおり、総合教育(一般教養)科目について若干変更する。変更内容については、以下のとおりである。

1) 総合教育(一般教養)科目の変更

<科目の新設>

① 外国語系

大川が地理的に東アジアの玄関口であること、およびキャンパスの規模・在籍学生数から鑑みて、「中国語」、「韓国語」にフォーカスした外国語教育を設定した。

② 社会系

「海外保健福祉事情Ⅰ(講義)」:1単位(15時間)、「海外保健福祉事情Ⅱ(実習)」:1単位(45時間)を必修とした。

本学は「国際性を目指した大学」を基本理念の一つとし、国際貢献できる医療福祉専門職の育成を目指しており、キャンパスの規模・在籍学生数から鑑みて、本科目を必修とした。

③ 総合系

「郷土論～大川学～」:1単位(15時間)を選択科目として新設した。

地域医療を支え、地域における需要に応えることのできる人材を育成するために、本科目を新設した。

<科目の名称等の変更>

既存学部の英語科目の名称については、それぞれ「英会話 1 (primary)」、「英会話 2 (basic)」、「医学英語 1 (primary)」、「医学英語 2(basic)」となっているが、大川キャンパスでは実用性を重視していることを科目名称にも反映させ、「英会話」、「実用英会話」、「医学英語 I (入門)」、「医学英語 II (応用)」とした。また、中国語および韓国語についても同様の理由により、「中国語初級 (基礎)」、「中国語中級 (応用)」、「韓国語初級 (基礎)」、「韓国語中級 (応用)」から、それぞれ、「中国語」、「実用中国語会話」、「韓国語」、「実用韓国語会話」とした。

(成田保健医療学部放射線・情報科学科)

成田保健医療学部放射線・情報科学科では、大田原キャンパス保健医療学部放射線・情報科学科と同様のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）およびディプロマポリシー（学位授与の方針）に基づいて教育を行うことを基本としている。

近年、放射線技術学が格段に進歩しており、高度な専門性や医学・医療横断的な幅広い学修と他分野多領域の理解が欠かせないことから、専任教員のみならず医学部等他学部の教員による基礎学力を重視した教育を展開する。また、医療人としての人間性の涵養、コミュニケーション能力の向上、国際人を目指した語学力向上のための講義・演習を充実させる。そのために細分化された科目を集約し、領域間の連動性を重視した科目として以下のとおり再編する。

○成田キャンパス用

1) 総合教育(一般教養)科目の変更

大田原キャンパスでは「海外保健福祉事情」:選択 2 単位 (30 時間)としている。成田キャンパスにおいては「海外保健福祉事情 I (講義)」:1 単位(30 時間)、「海外保健福祉事情 II (実習)」:1 単位(45 時間)を必修とした。

「統計学」:2 単位 (30 時間) を必修とした。

2) 専門基礎科目の変更

大田原キャンパスのみ開講科目「コンピュータの基礎」:選択 2 単位 (30 時間) は成田キャンパスでは実施しない。

「数学 I (基礎)」:必修 1 単位 (30 時間)、「数学 II (微分積分学)」:必修 1 単位 (30 時間) を統合し「基礎数学」必修 2 単位 (30 時間) に変更した。

「自然科学入門」:必修 2 単位 (30 時間) を「自然科学概論」:必修 2 単位 (30 時間) に名称を変更した。

「総合科学実験 I (入門)」:必修 1 単位 (45 時間)、「総合科学実験 II (基礎)」:必修 1 単位 (45 時間) を統合し「自然科学実験」:必修 1 単位 (45 時間) に変更した。

3) 専門科目の変更

「放射線計測学（基礎）」：必修1単位（30時間）、「放射線計測学Ⅱ（応用）」：選択1単位（30時間）を統合し「放射線計測学」：必修1単位（30時間）に変更した。

「放射化学Ⅰ（基礎）」：必修1単位（30時間）、「放射化学Ⅱ（応用）」：選択1単位（30時間）を統合し「放射化学」：必修1単位（30時間）に変更した。放射線計測学および放射化学の応用編を「放射線科学演習」：選択1単位（30時間）として新設した。

「放射化学実験」：必修1単位（45時間）を廃止した。

「医療情報システム論」：必修1単位（30時間）を「医療情報システム論」：必修1単位（15時間）に変更した。

「診療放射線概論」：必修1単位（30時間）を「診療放射線概論」：必修1単位（15時間）に変更した。「医用画像検査学概論」：必修1単位（30時間）を「医用画像検査学概論」：必修1単位（15時間）に変更した。

「医用X線機器工学Ⅰ（X線発生システム）」：必修1単位（30時間）、「医用X線機器工学Ⅱ（X線映像システム）」：必修1単位（30時間）を統合し、「医用X線機器工学」：必修2単位（30時間）に変更した。

「医用X線CT工学」：必修1単位（30時間）、「医用X線CT検査学」：必修1単位（15時間）を統合し「医用X線CT検査学」：必修2単位（30時間）に変更した。

「医用磁気共鳴論」：必修1単位（30時間）、「MRI検査学」：必修1単位（15時間）を統合し、「MRI検査学」：必修2単位（30時間）に変更した。

「医用超音波論」：必修1単位（30時間）、「医用超音波検査学」：必修1単位（15時間）を統合し、「医用超音波検査学」：必修2単位（30時間）に変更した。

「医用画像学実験Ⅰ（一般撮影・他）」：必修1単位（45時間）、「医用機器工学実験Ⅰ（一般撮影機器）」：必修1単位（45時間）を統合し、「医用画像学実験Ⅰ」：必修2単位（60時間）に変更した。

「医用画像学実験Ⅱ（特殊撮影・他）」：必修1単位（45時間）、「医用機器工学実験Ⅱ（CT、MRI）」：必修1単位（45時間）を統合し、「医用画像学実験Ⅱ」：必修2単位（60時間）に変更した。

「核医学機器工学」：必修1単位（15時間）を廃止した。

「核医学実験」：必修1単位（45時間）を「核医学実験」：必修2単位（60時間）に変更した。

「核医学特論」：選択1単位（30時間）を新設した。

「放射線治療機器工学」：必修1単位（15時間）を廃止した。

「放射線治療学実験」：必修1単位（45時間）を「放射線治療学実験」：必修2単位（60時間）に変更した。

「放射線腫瘍特論」：選択1単位（30時間）を「放射線腫瘍学特論」：選択1単位（30時間）に名称を変更した。

「臨床画像解剖学」：必修1単位（30時間）を廃止した。

「臨床薬理学」：選択1単位（30時間）を必修1単位に変更した。

「医療安全管理学」：必修1単位（30時間）を「医療安全管理学」：必修2単位（30時間）に変更した。

「臨床実習演習」：必修1単位（30時間）を「臨床実習演習」：必修2単位（30時間）に変更した。

「放射線学演習Ⅰ（基礎）」：必修1単位（30時間）を必修2単位（30時間）に変更した。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

今回の福岡薬学部及び成田保健医療学部放射線・情報科学科における教育方法及び履修指導方法は、既存の他学部他学科で実施している全学共通の内容のため、福岡薬学部及び成田保健医療学部放射線・情報科学科においても同等の内容が保障されるものである。また、既存の大田原キャンパスの薬学部及び保健医療学部放射線・情報科学科の教育方法及び履修指導方法に一切影響を与えるものではない。

ちなみに、本学の教育においては、講義、演習、実験・実習、臨地（臨床）実習及びゼミの授業形態をバランスよく組み込んで、各学科の教育目標が達成できるよう工夫している。総合教育科目においては他の専門職を目指す学生とともに学生時代から学ぶ機会を設けたり、学科共通の専門基礎科目においては、関連職種連携論や関連職種連携実習などによってチーム医療を学ぶことができる。一部の学科共通科目においては、本学の4キャンパスで同時双方向遠隔授業システムを活用してつなぐICT（情報通信技術）授業なども行っている。

また、本学にはFD委員会が組織されており、教員の教育・教授方法の改善のため、全キャンパス合同で教員研修会を開催している。その他、毎期学生による授業評価アンケートを組織的に実施し、その結果を学生にフィードバックするとともに、各学科で各教員間の評価結果を比較検討し、授業内容、教授方法の改善に努めている。

履修指導に関しては、本学の全ての学部学科において「履修系統図」を作成し、履修の手引き等に掲載している。【資料 11：履修系統図（既設の薬学部及び保健医療学部放射線・情報科学科）】

これは学生に対し、卒業までに身につけるべき知識や技術を得るための授業科目がどのように配置されているか、各授業科目の関連性などを可視化することで、カリキュラム体系をより分かりやすく理解してもらう工夫となっている。

また、全学科ともに学年が始まる前の3月下旬に学年ごとに学生に対するオリエンテーションを実施しており、この中で学年ごとの履修に関する注意、指導を各学科の教務委員が行っている。なお、このオリエンテーションでは履修関係以外に、学生生活全般に関する注意、指導をはじめ臨床実習や国家試験に関する注意、指導

等も行っている。

さらに、各学科ではアドバイザー制度を設けており、教員と学生が個別面談を行い、学生の履修登録の相談や内容確認を行う他、事務局の教務課担当者も履修登録の手続きに関する窓口相談に応じている。

以上のように本学では教育方法及び履修指導方法について様々な工夫をしており、福岡薬学部及び成田保健医療学部放射線・情報科学科においても、これらの方法を踏襲するものである。

(3) 教員組織の変更内容

福岡薬学部及び成田保健医療学部放射線・情報科学科の教員は、専門性、総合性、柔軟性、社会性、倫理性そして国際性を備えた専門職業人としての各分野の専門職の養成という目標に沿った教育課程実現のため、各学科の専任教員には豊かな人間性と専門分野における十分な教育研究業績及び臨床経験を有する教員を配置する。

教員組織の編成にあたっては、一般公募等による新規採用教員と本学の既存の他学部他学科からの異動教員によって行うこととする。学科ごとの新規採用者数、内部異動者数は下記のとおりである。

【教員組織内訳（新規採用、内部異動）】

学部学科名	教員数計	新規採用者数	内部異動者数
福岡薬学部薬学科	37人	26人	11人
成田保健医療学部放射線・情報科学科	14人	7人	7人
合 計	51人	33人	18人

内部異動者の異動元（本学他キャンパスの既存学部等）の内訳は、福岡薬学部が、大田原キャンパスの薬学部から5人（教授2人、准教授3人）、福岡キャンパスの福岡看護学部から1人（教授）、大川キャンパスの福岡保健医療学部から5人（理学療法学科:1人（教授）、作業療法学科:1人（教授）、医学検査学科:3人（教授2人、准教授1人））である。

また、成田保健医療学部放射線・情報科学科が大田原キャンパスの保健医療学部放射線・情報科学科から2人（教授1人、准教授1人）、成田キャンパスの総合教育研究センターから2人（准教授1人、講師1人）、本学の附属病院から3人（教授2人、助教1人）である。

それぞれの内部異動者の後任については、一般公募等で順次原則同水準の教員の新規採用を進め、学生教育に影響が出ないよう対応する予定である。

なお、福岡薬学部及び成田保健医療学部放射線・情報科学科の職位別の教員組織の状況等は以下のとおりである。

(福岡薬学部)

福岡薬学部の職位別の教員の配置状況は次のとおりである。

学部・学科名	教授	准教授	講師	助教	合計
福岡薬学部薬学科	19人	9人	4人	5人	37人

専任教員数は、37人で、うち、教授が19人である。福岡薬学部の収容定員は720人であるが、大学設置基準で規定する必要専任教員数は、30人（うち教授が15人以上）であり、当該基準を上回って配置するものである。

また、専任教員数には、薬剤師としての実務の経験（おおむね5年以上）を有する者を5人以上含む必要があるが、福岡薬学部では、5人の薬剤師実務経験者（5年以上）を含んでおり、基準を満たしている。

(成田保健医療学部放射線・情報科学科)

成田保健医療学部放射線・情報科学科の職位別の教員の配置状況は、次のとおりである。

学部・学科名	教授	准教授	講師	助教	合計
成田保健医療学部 放射線・情報科学科	8人	2人	2人	2人	14人

専任教員数は、14人で、うち、教授が8人である。成田保健医療学部放射線・情報科学科の収容定員は200人であるが、大学設置基準で規定する必要専任教員数は、8人（うち教授が4人以上）であり、当該基準を上回って配置するものである。

また、これら専任教員14人のうち診療放射線技師資格取得者は7人（うち、業務経験5年以上の診療放射線技師7人）、医師資格取得者は2人である。

(4) 大学全体の施設、設備の変更内容

(福岡薬学部)

福岡薬学部設置予定の大川キャンパスは、福岡県大川市榎津137番1に位置しており、40,991㎡のキャンパスを有し、現在、福岡保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科及び医学検査学科）を設置しており、収容定員は960人で、1,000人以上の学生が学んでいる。大川キャンパスは、隣接する506床の高木病院をはじめ、キャンパス周辺に医療、リハビリテーション、在宅での看護・介護など、さまざまな医療福祉サービスを提供するグループ施設が揃い、医療福祉を学ぶ環境が整っている。

同敷地内には、グラウンド（9,435㎡）も整備されている。また、グラウンドに隣接して、薬学部に必要な薬草園（606㎡）を設ける。

また、今回の薬学部設置に際して、大川市との協定に基づき、2020年3月に閉校予定の市立大川南中跡地（福岡大川市一木421番1、面積：24,491㎡）の無償譲渡を受ける予定である。

当該跡地は、大川キャンパスから1,500mほど離れたところにあり、運動場やテニスコートなどを整備し活用する予定である。

大川キャンパスには、既存校舎として、1号館（4階建：7,537.31㎡）、2号館（4階建：6,960.91㎡）、3号館（4階建：5224.67㎡）、及び図書館・講堂棟（3階建：2,613.70㎡）を有しており、これらの校舎については、図書館・講堂棟の全部と他の校舎の一部を福岡保健医療学部と共用して使用する。

また、既存の校舎を共用するほか、薬学部棟を新築する。新築する薬学部棟は、鉄筋コンクリート造5階建てで、延床面積10,307.25㎡である。

校舎の中には、講義室、実験・実習室、ゼミ室、研究室、学生ラウンジ、更衣室、事務室等を整備する。

新築する薬学部棟の各階ごとの延床面積、主な使用用途は、下表のとおり。

	延床面積	主な使用用途
5F	2,056.01㎡	ゼミ室、教員個室、共同研究室、会議室、学部長室、事務室
4F	2,056.01㎡	実験室（化学系、物理系・衛生系）、情報処理室、研究室
3F	2,056.01㎡	実験室（生物系）、研究室、動物観察室、マウス飼育室
2F	2,056.01㎡	講義室、研究室、調剤実習室、模擬薬局室、検収室
1F	2,083.21㎡	学生ラウンジ、更衣室、講義室、顕微鏡室、NMR室
計	10,307.25㎡	

薬学部棟については、既に着工しており、2020年4月開設に向け、工事は順調に進捗しており、2020年2月に竣工・引渡しの予定である。

学内での講義、実験、演習、実習等で使用する機械器具、標本、模型や図書等の設備は新たに購入する。

（校地・校舎等の詳細は、「2.校地・校舎等の図面」参照）

（成田保健医療学部放射線・情報科学科）

成田保健医療学部放射線・情報科学科設置予定の成田キャンパスは、千葉県成田市公津の杜4丁目3番の京成本線公津の杜駅前の敷地で、道路を隔てて、成田看護学部・成田保健医療学部（敷地面積12,781.51㎡）と医学部（敷地面積14,827.38㎡）があり、それらの敷地は成田市と20年以上の無償貸借契約を締結しており、長期にわたり安定的な教育環境を確保している。

また、運動施設は、医学部、成田看護学部、成田保健医療学部と共用している。このうち、運動場は、成田キャンパス内の多目的広場（芝：1,750㎡）のほか、当該キャンパスから1,400mのところにある旧成田市スポーツ広場跡地（5,659㎡）にテニスコート3面を整備している。加えて成田看護学部・成田保健医療学部棟の4階にバスケットコート2面を有する体育館を整備している。

成田保健医療学部放射線・情報科学科の校舎については、成田看護学部・成田保健医療学部棟（鉄筋コンクリート造9階建て、延床面積は、29,145.24㎡）の一部を共有する。（図書館、食堂、体育館、講義室、パソコン室、学生ラウンジ、自習室等）

また、医学部WA（Ⅱ期）棟の2階及び6階の一部を改修し、成田保健医療学部放射線・情報科学科の専用スペースとする。

医学部生のロッカー室や学生ラウンジは、WB（Ⅰ期）棟の2階にあることから、医学部生との交流が深められるよう、医学部WA（Ⅱ期）棟2階のサーバー室（床面積72㎡）を新学科の学生ロッカー室に改修する。

医学部WA（Ⅱ期）棟の6階（延床面積3,118.14㎡）は、医学部の実験用のスペース（8室）になっているが、予備室的な面もあり、全く使用されておらず、成田病院が開設される畑ヶ田地域に新たに研究スペースを確保する予定であるため、今後も使用予定はないことから、一部改修の上、新学科の専用スペースとして使用する。

具体的には、講義室4室、基礎科学実験室（2室）、CT室、X線室、画像工学実習室、MRI室、医用画像学実験室（2室）、核医学実験室、放射線治療学実験室、就職相談室（兼事務室）、会議室等に使用する。

これらの改修工事は、6月に着工し、2月末に竣工・引渡しの予定である。

教員の研究室は、WB（Ⅰ期）棟の6階の空いている研究室を活用する。

学内での講義、実験、演習、実習等で使用する機械器具、標本、模型や図書等の設備については、診療放射線技師学校養成所指定規則等で規定している整備が必要なものを中心に新たに整備する。

（校地・校舎等の詳細は、「2.校地・校舎等の図面」参照）

※ 医学部WA（Ⅱ期）棟の2階の一部及び6階を新学科に転用することに伴う医学部の教育研究への影響について

医学部の校舎は、WA（Ⅱ期）棟とWB（Ⅰ期）で構成されており、延床面積は、2棟合わせて47,107.65㎡あり、設置基準上の必要面積（19,750㎡）の2倍以上の規模を有し、教職員・学生にとって、ゆとりのある教育研究環境を整えている。

2020年4月には国際医療福祉大学成田病院が開設する。また、病院の附属施設として新たに教育研修センターも建設中であり、病院棟と同時期に竣工予定である。教育研修センターは、鉄骨造8階建てで延床面積約10,800㎡の規模で、教職員や学生のための図書室、学習室、研究室、多目的ホール、シミュレーション室、医局や休息スペース等からなり、教職員、学生の教育研究環境や福利厚生充実を図る。

国際医療福祉大学成田病院開設後は、医学部を中心とした学生や教員が当該病院等を利活用することとなる。とりわけ、臨床系の医学部教員は、国際医療福祉大学成田病院を拠点に研究を行うため、病院棟や教育研修センターでの教育研究活動が中心になると考えられる。その結果、医学部校舎は、今まで以上に余裕スペースが生じると考えている。

このように、医学部校舎については、上記のとおり、ゆとりを持たせた構造となっており、WA（Ⅱ期）棟6階については、研究用の実験スペースとして確保しているが、使用目的については限定せず、それ以外の多様な目的で使用可能な予備室的な面も有

している。また、国際医療福祉大学成田病院が2020年度に開設し、当該病院等が教育研究で利活用されていくことや病院の附属施設として教育研修センターを新設されることを考慮すると、医学部WA(Ⅱ期)棟6階の改修により実験室等予備的空間が減少しても医学部の教育研究に支障をきたすおそれはないと考えている。

医学部WA(Ⅱ期)棟2階については、サーバー室を学生ロッカー室に改修するものであるが、当該サーバー室については、特に使用されておらず空室となっており、ロッカー室に改修しても医学部の教育研究に支障を来たすおそれはないと考えている。

資料編

目 次

- 資料 1 教育課程等の概要（福岡薬学部）
- 資料 2 教育課程等の概要（成田保健医療学部放射線・情報科学科）
- 資料 3 教育課程等の概要（福岡保健医療学部理学療法学科）
- 資料 4 教育課程等の概要（保健医療学部放射線・情報科学科）
- 資料 5 私立薬科大学(薬学部)在学生(3年生)出身校都道府県別調 6年制(抜粋)
- 資料 6 福岡、佐賀、熊本各県の市区町村別薬剤師数
- 資料 7 大川市と学校法人国際医療福祉大学との薬学部設置に関する基本協定書
- 資料 8 診療放射線技師養成校及び入学定員（関東地区）
- 資料 9 都道府県別診療放射線技師 人口 10 万人対比表
- 資料 10 一般社団法人千葉県診療放射線技師会からの要望書
- 資料 11 履修系統図（既設の薬学部及び保健医療学部放射線・情報科学科）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(福岡薬学部薬学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
人間系	文学論	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	
	演劇論	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1	
	心理学	1前	2			○								兼1	
	哲学	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	
	コミュニケーション概論	1前	2			○								兼1	
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	2・3・4・5・6前		2		○								兼1	
	人間学	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	
	倫理学	1・2・3・4・5・6後		2		○								兼1	
	宗教学	1・2・3・4・5・6後		2		○								兼1	
	日本近現代史	1・2・3・4・5・6後		2		○								兼1	メディア授業
	文化人類学	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	メディア授業
	教育学	1・2・3・4・5・6後		2		○								兼1	メディア授業
	死生学-死を通して生を考える-	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	メディア授業
社会系	法学	1前	2			○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	
	社会学	1・2・3・4・5・6後		2		○								兼1	
	国際関係論	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	
	国際医療福祉論	1・2・3・4・5・6後		2		○								兼1	メディア授業
	組織運営管理論	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	
	海外保健福祉事情 I (講義)	2前	1			○								兼1	
	海外保健福祉事情 II (実習)	2通	1					○						兼1	
	社会保障制度論	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	
	ボランティア論	1・2・3・4・5・6後		2		○								兼1	
経済の仕組み	1・2・3・4・5・6後		2		○								兼1		
自然・情報系	統計学	1後	2			○								兼1	
	数学	1後	2			○								兼1	
	物理学	1・2・3・4・5・6前		2		○				1				兼1	
	化学	1前	2			○					1			兼1	
	生物学	1前	2			○								兼1	
	情報処理	1前	1			○								兼1	
	生命倫理	1後	2			○								兼1	
	医学/医療史	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	メディア授業
総合系	大学入門講座 I (基礎)	1前	1			○								兼1	
	大学入門講座 II (展開)	1・2・3・4・5・6前		1		○								兼1	
	郷土論～大川学～	1・2・3・4・5・6前		1		○								兼1	
	医療福祉教養講義	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1	メディア授業
	メディカルマナー入門	1・2・3・4・5・6前		2		○								兼1	メディア授業
外国語系	英語講読1 (Primary)	1後	1			○					1			兼1	留学生は選択
	英語講読2 (Basic)	2前	1			○					1			兼1	留学生は選択
	英語CALL1 (Primary)	1前	1			○					1			兼1	留学生は選択
	英語CALL2 (Basic)	2後	1			○					1			兼1	留学生は選択
	英会話	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1	
	実用英会話	2・3・4・5・6前		1		○								兼1	
	医学英語 I (入門)	1・2・3・4・5・6前		1		○								兼1	
	医学英語 II (応用)	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1	
	資格英語1 (Primary)	1・2・3・4・5・6前		1		○								兼1	
	資格英語2 (Basic)	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1	
	中国語	1・2・3・4・5・6通		2		○								兼1	
	実用中国語会話	2・3・4・5・6前		1		○								兼1	
	韓国語	1・2・3・4・5・6通		2		○								兼1	
実用韓国語会話	2・3・4・5・6前		1		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合教育科目	外国語系 留学生用日本語科目	作文・読解Ⅰ（入門）	1・2・3・4・5・6前		1		○								兼1	留学生は必修
		作文・読解Ⅱ（応用）	1前		1		○								兼1	
		作文・読解Ⅲ（完成）	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1	
		文法・語彙Ⅰ（入門）	1・2・3・4・5・6前		1		○								兼1	
		文法・語彙Ⅱ（応用）	1前		1		○								兼1	
		文法・語彙Ⅲ（完成）	1・2・3・4・5・6前		1		○								兼1	
		発表・討論Ⅰ（応用）	1前		1		○								兼1	
		発表・討論Ⅱ（完成）	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1	
		医療福祉専門漢字	1前		1		○								兼1	
		医療福祉専門語彙	1後		1		○								兼1	
体育健康系	健康科学理論	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1		
		健康科学実践	1・2・3・4・5・6後		1			○						兼1		
小計（66科目）			24	70	2	-			1	1	0	0	0	兼32		
専門基礎科目	学部共通	公衆衛生学	3後	2			○			1		2			兼1	共同
		救急医学(救命救急を含む)	2・3前		1		○			1						
		リハビリテーション概論	1・2・3・4・5・6前		2			○								
		微生物と病気	1・2・3・4・5・6後		2			○								
		関連職種連携論	2後	2				○			1				兼1	
		ケアマネジメント論	2・3・4・5・6前		1			○							兼1	
		保健医療福祉制度論	1・2・3・4・5・6前		2			○							兼1	
		臨床心理学概論	1後	2					○						兼1	
		関連職種連携ワーク	3前	1					○			1			兼1	
		関連職種連携実習	5前		1					○		1			兼1	
リスクマネジメント論	3・4・5・6前		2				○						兼1			
薬学科	薬学	薬学演習Ⅰ（物理系等）	2後	1				○				1				
		薬学演習Ⅱ（化学系等）	3前	1					○				1			
		薬学演習Ⅲ（生物系等）	3後	1					○				1			
		薬学計算	2前	1				○		1						
		病原微生物学	3前	2				○			1					
		コミュニケーション実習	2前	1						○	2	2	1		共同	
		基礎薬学実習Ⅰ（物理）	1後	1						○	2	1	1		共同	
		基礎薬学実習Ⅱ（生物）	1後	1						○	2	3			共同	
小計（19科目）			16	11	0	-			8	4	3	3	0	兼9		
専門教育	専門科目	薬学概論	1後	2			○			1						
		有機化学Ⅰ（脂肪族化合物1）	1後	2			○				1					
		有機化学Ⅱ（脂肪族化合物2）	2前	2			○					1				
		有機化学Ⅲ（芳香族化合物）	2後	2			○			1						
		生薬学	2前	2			○								兼1	
		天然物化学	2後	1			○								兼1	
		医薬品構造化学	3後	1			○					1				
		分析化学Ⅰ（溶液中の化学平衡と滴定法）	1後	2			○			1						
		分析化学Ⅱ（機器分析、分離分析および臨床分析）	2前	2			○			1						
		医薬品構造解析	2後	2			○			1		1	1		共同	
		薬品物理化学Ⅰ（物性とエネルギー）	1後	2			○				1					
		薬品物理化学Ⅱ（平衡と変化）	2前	2			○				1					
		放射化学	2前	1			○					1				
		生化学Ⅰ（生体分子）	1後	2			○				1					
		生化学Ⅱ（生体エネルギー・代謝）	2前	2			○			1						
		分子生物学Ⅰ（遺伝情報・細胞内情報伝達）	2前	2			○				1					
		分子生物学Ⅱ（細胞間コミュニケーション・遺伝）	2後	2			○					1				
		解剖生理学Ⅰ（外皮系、骨格系・筋肉系、循環器系）	1後	2			○			1					兼1	
		解剖生理学Ⅱ（神経系、内分泌系）	2前	2			○			4					共同	
		解剖生理学Ⅲ（消化器系、呼吸器系、泌尿器系）	2後	2			○			4					共同	
		がん薬物療法	3前	2			○					1				
		ゲノム医療	3後	1			○					1				
		化学療法	3後	2			○			1	1					
		免疫学	2後	2			○			1						
		疾病と病態生理学Ⅰ（内分泌系、神経精神系疾患等）	2後	2			○				1					
		疾病と病態生理学Ⅱ（循環器系疾患、消化器系疾患等）	3前	2			○			2	1				共同	
疾病と病態生理学Ⅲ（呼吸器系疾患、代謝性疾患等）	3後	2			○			1	1				共同			
薬理学Ⅰ（総論、末梢神経薬理等）	3前	2			○			1								
薬理学Ⅱ（中枢神経薬理、免疫・炎症薬理等）	3後	2			○				1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	専門科目	薬理学Ⅲ (循環器薬理、消化器薬理等)	4前	2			○				1						
		薬理学Ⅳ (呼吸器薬理、内分泌薬理等)	4前	2			○				1						
		医薬品安全性学	4後	2			○				2						共同
		臨床検査医学	3前	2			○				1	1					共同
		薬物治療学Ⅰ (神経精神系疾患、内分泌系疾患等)	4後	2			○				2						共同
		薬物治療学Ⅱ (循環器系疾患、呼吸器系疾患等)	4後	2			○				1						
		薬物治療学Ⅲ (症例・病態解析)	6前	2			○				4	1					共同
		物理薬剤学	2後	2			○					1					
		製剤設計とDDS	4前	2			○				1						
		臨床薬学Ⅰ (調剤の基礎)	3後	2			○						1				
		臨床薬学Ⅱ (調剤の実践)	4前	2			○				1			3			共同
		臨床薬学Ⅲ (薬物療法の実践)	4後	2			○						1	3			共同
		臨床薬学Ⅳ (チーム医療・地域医療の実践その前に)	4~5通	1			○				1	2	3				共同
		薬物動態学	3後	2			○				1						
		臨床薬物動態学	4前	2			○				1						
		医薬品情報学Ⅰ (医薬品情報の収集と活用)	3前	2			○						1				
		医薬品情報学Ⅱ (EBMと臨床研究)	6前	1			○				1	2					共同
		衛生化学Ⅰ (食品・栄養)	2後	2			○				1						
		衛生化学Ⅱ (毒性・代謝)	3前	2			○				1						
		環境衛生学	3前	2			○				1						
		医療関係法規	4前	2			○				1	2					共同
		日本薬局方	3後	1			○										兼1
		漢方医学Ⅰ (漢方の基礎)	3後	2			○										兼1
		漢方医学Ⅱ (漢方の応用)	4前	1			○										兼1
		OTC医薬品概論	3後	2			○							3			共同
		化学系薬学実習Ⅰ (有機合成)	2前	1						○	1	2	1				共同
		化学系薬学実習Ⅱ (天然資源)	2後	1						○	1	2	1				共同
		物理系薬学実習	2後	1						○	2	1	1	1			共同
		生物系薬学実習	4前	1						○	3	1					共同
		分子生物学実習	3前	1						○	2	3					共同
		臨床検査医学実習	3後	1						○	4	2					共同
		衛生系薬学実習	3前	1						○	2		2	1			共同
		早期体験実習	1後	1						○	2		3				共同
		医療系薬学実習Ⅰ (調剤の基礎と情報収集)	3後	1						○	1	1	3				共同
		医療系薬学実習Ⅱ (調剤の実践と服薬指導)	4前	1						○	1	1	3				共同
		病院・薬局事前実習Ⅰ (実務実習に必要な基本的知識)	4前	2						○	1						共同
		病院・薬局事前実習Ⅱ (実務実習に必要な基本的技能)	4後	2						○	1						共同
		病院・薬局実務実習Ⅰ (主に病院での実習)	5~6通	10						○	1	1	3				共同
		病院・薬局実務実習Ⅱ (主に薬局での実習)	5~6通	10						○	1	1	3				共同
		総合薬学演習Ⅰ (主として物理・化学・生物・衛生)	6前	1					○		19	9	4				共同
		総合薬学演習Ⅱ (主として薬理・薬剤・病態・実務)	6後	1					○		19	9	4				共同
		卒業研究	5~6通	4					○		19	9	4	5			共同
小計 (71科目)			140	0	0			-	19	9	4	5			兼2		
合計 (15・6科目)			180	81	2			-	19	9	4	5	0		兼42		
学位又は称号		学士 (薬学)		学位又は学科の分野				薬学関係									
卒業要件 190単位								授業期間等									
①総合教育 必修24単位 (人間系4単位、社会系4単位、自然・情報系11単位、総合系1単位、外国語系4単位) ②専門基礎 必修16単位 ③専門 必修140単位 ④総合教育科目・専門教育科目 選択10単位								1学年の学期区分				2学期					
								1学期の授業期間				15週					
								1時限の授業時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(成田保健医療学部 放射線・情報科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
総 合 系	人間学	文学論		2		○								兼1	メディア授業
	人間学	演劇論		1		○								兼1	
	人間学	パフォーマンス表現論		2		○								兼1	
	人間学	心理学		2		○								兼1	
	人間学	哲学		2		○								兼1	
	人間学	コミュニケーション概論		2		○								兼1	
	人間学	雑談と傾聴～話す力と聴く力～		2		○								兼1	
	人間学	人間学		2		○								兼1	
	人間学	歴史学		2		○								兼1	
	人間学	倫理学		2		○								兼1	
	人間学	宗教学		2		○								兼1	
	人間学	日本近現代史		2		○								兼1	
	人間学	文化人類学		2		○								兼1	
	人間学	教育学		2		○								兼1	
人間学	教育方法論		2		○								兼1		
人間学	死生学-死を通して生を考える		2		○								兼1		
教 育 科	社会学	法学		2		○								兼1	メディア授業
	社会学	法と道徳・倫理		2		○								兼1	
	社会学	医療関連法規		2		○								兼1	
	社会学	社会保障制度論		2		○								兼1	
	社会学	経済の仕組み		2		○				1				兼1	
	社会学	経済の歴史		2		○				1				兼1	
	社会学	世界の経済		2		○				1				兼1	
	社会学	アジア諸国の経済・社会・文化		2		○								兼1	
	社会学	世界の中の和文化		1		○								兼1	
	社会学	経営の仕組み		2		○								兼1	
	社会学	組織運営管理論		2		○								兼1	
	社会学	社会学(人間と社会)		2		○								兼1	
	社会学	マスメディア論		2		○								兼1	
	社会学	新聞でみた日本と世界		2		○								兼1	
	社会学	国際関係論		2		○								兼1	
	社会学	国際医療福祉論		2		○								兼1	
	社会学	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)		1		○								兼1	
	社会学	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)		1			○							兼1	
社会学	ボランティア論		2		○								兼1		
社会学	ボランティアコーディネート論		2		○								兼1		
社会学	手話入門		2		○								兼1		
社会学	防災と生活デザイン		2		○								兼1		
目 ・ 情 報 系	情報学	統計学		2		○								兼1	メディア授業
	情報学	疫学・保健医療統計学		2		○								兼1	
	情報学	数学		2		○								兼1	
	情報学	物理学		2		○								兼1	
	情報学	化学		2		○								兼1	
	情報学	生物学		2		○								兼1	
	情報学	情報処理Ⅰ(初歩)		1		○								兼1	
	情報学	情報処理Ⅱ(基礎)		1		○								兼1	
	情報学	情報処理Ⅲ(応用)		1		○								兼1	
	情報学	生命倫理		2		○								兼1	
情報学	医学/医療史		2		○								兼1		
情報学	人間工学		2		○								兼1		

総合系	大学入門講座Ⅰ(基礎)	1前	1				○											兼1		
	大学入門講座Ⅱ(展開)	1・2・3・4前		1			○											兼1		
	郷土論	1・2・3・4前		1			○											兼1		
	医療福祉教養講義	1・2・3・4後		1			○											兼1		
	メディカルマナー入門	1・2・3・4後		2			○											兼1	メディア授業	
総合系	英語講読1(Primary)	1前	1	*1			○							1					兼1	留学生は選択
	英語講読2(Basic)	1後	1	*1			○												兼1	留学生は選択
	英語CALL1(Primary)	1前	1	*1			○							1					兼1	留学生は選択
	英語CALL2(Basic)	1後	1	*1			○												兼1	留学生は選択
	英語講読3(Intermediate)	2・3・4前		1			○												兼1	
	英語講読4(Advanced)	2・3・4後		1			○												兼1	
	英語会話1(Primary)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	英語会話2(Basic)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	英語会話3(Intermediate)	2・3・4前		1			○							1					兼1	
	英語会話4(Advanced)	2・3・4後		1			○												兼1	
	英語ライティング1(Primary)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	英語ライティング2(Basic)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	国際医療通訳入門	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	資格英語1(Primary)	1・2・3・4前		1			○							1						
	資格英語2(Basic)	1・2・3・4後		1			○							1						
	基礎英文法1(Primary)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	基礎英文法2(Basic)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	上級英語文献講読	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	上級英語会話1(発展)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	上級英語会話2(総合)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	ドイツ語入門(会話含む)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	ドイツ語基礎(会話含む)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	中国語入門(会話含む)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	中国語基礎(会話含む)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	韓国語入門(会話含む)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	韓国語基礎(会話含む)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	フランス語入門(会話含む)	1・2・3・4前		1			○								1					
	フランス語基礎(会話含む)	1・2・3・4後		1			○								1					
	スペイン語入門(会話含む)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	スペイン語基礎(会話含む)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	タイ語入門(会話含む)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	タイ語基礎(会話含む)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	ベトナム語入門(会話含む)	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	ベトナム語基礎(会話含む)	1・2・3・4後		1			○												兼1	
ビルマ語入門(会話含む)	1・2・3・4前		1			○												兼1		
ビルマ語基礎(会話含む)	1・2・3・4後		1			○												兼1		
日本語Ⅰ-A(文法・表現)	1・2・3・4前		1			○												兼1		
日本語Ⅰ-B(記述)	1・2・3・4後		1			○												兼1		
日本語Ⅰ-C(読解)	1・2・3・4前		1			○												兼1		
日本語Ⅰ-D(会話)	1・2・3・4後		1			○												兼1		
日本語Ⅱ-A(文法・表現)	1・2・3・4前		1			○												兼1		
日本語Ⅱ-B(記述)	1・2・3・4後		1			○												兼1		
日本語Ⅱ-C(読解)	1・2・3・4前		1			○												兼1		
日本語Ⅱ-D(会話)	1・2・3・4後		1			○												兼1		
日本語Ⅲ-A(文法・表現)	1・2・3・4前		1			○												兼1		
日本語Ⅲ-B(記述)	1・2・3・4後		1			○												兼1		
日本語Ⅲ-C(読解)	1・2・3・4前		1			○												兼1		
日本語Ⅲ-D(会話)	1・2・3・4後		1			○												兼1		
医療福祉専門漢字	1・2・3・4前		1			○												兼1		
医療福祉専門語彙	1・2・3・4後		1			○												兼1		
保健体育系	健康科学理論	1・2・3・4後		1			○												兼1	
	健康科学実践	1・2・3・4前		1			○												兼1	
	小計(107科目)		—	10	141	0	—	—	0	1	1	0	0	兼48						

専 門 基 礎 （ 学 部 共 通 ）	公衆衛生学	2後	2			○											兼1	メディア授業
	救急医学	2後	1			○											兼1	
	感染と免疫	2・3・4後	2			○											兼1	
	リハビリテーション概論	1・2・3・4前	2			○											兼1	
	関連職種連携論	1・2・3・4後	2			○											兼1	
	ケアマネジメント論	2・3・4前	1			○											兼1	
	ケースワーク論	1・2・3・4後	1			○											兼1	
	医療管理学	1・2・3・4後	2			○											兼1	
	保健医療福祉制度論	1・2・3・4前	2			○											兼1	
	社会福祉学	1・2・3・4前	2			○											兼1	
	臨床心理学概論	1・2・3・4前	2			○											兼1	
	医療情報学概論	2・3・4後	2			○											兼1	
	福祉支援工学概論	1・2・3・4後	2			○											兼1	
	関連職種連携ワーク	3前	1				○										兼1	
	関連職種連携実習	4前	1					○									兼1	
	リスクマネジメント論	2・3・4前	2			○											兼1	
	電子カルテによるチーム医療概論	2・3・4後	2			○											兼1	
	エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	2・3・4前	1			○											兼1	
レクリエーション概論	2・3・4前	1			○											兼1		
災害保健学	2・3・4前	1			○											兼1		
予防保健学	2・3・4後	1			○											兼1		
国際医療保健学	2・3・4前	1			○											兼1		
異文化体験実習	2・3・4後	1					○									兼1		
教 育 基 礎	基礎数学	1後	2			○											兼1	共同
	自然科学概論	1前	2			○			1								兼2	
	基礎物理学	1後	1			○											兼1	
	基礎化学	1後	1			○											兼1	
	基礎生物学	1後	1			○				1							兼1	
	解剖学Ⅰ（運動器系・循環器系・内臓系）	1前	1			○											兼1	
	解剖学Ⅱ（内臓系・神経系・感覚器系）	1後	1			○											兼1	
	生理学	1後	2			○											兼1	
	病理学	2前	2			○											兼1	
	病態生理学	2後	1			○				1							兼1	
	医学概論	1前	2			○				1							兼1	
	看護概論	3前	1			○											兼1	
放射線救急医学	3前	2			○				1							兼1		
自然科学実験	1前	1					○		2			2				兼1		
小計（37科目）	—	25	30	0	—	—	—	—	4	0	0	2	0			兼26	共同	
科 目	応用数学	2前		1		○											兼1	共同
	放射線物理学Ⅰ（基礎）	1後	1			○											兼1	
	放射線物理学Ⅱ（発展）	2前	1			○											兼1	
	放射線計測学	2前	1			○				1							兼1	
	放射線科学演習	2後		1			○			2							兼1	
	放射線計測学実験	2後	1					○		2		1	2				兼1	
	放射化学	2前	1			○											兼1	
	放射線生物学	2前	1			○				1							兼1	
	画像解剖学	2後	2			○				1							兼1	
	画像情報学Ⅰ（感光理論・処理）	1後	2			○					1						兼1	
	画像情報学Ⅱ（画質評価）	2前	2			○					1						兼1	
	画像情報学実験	1後	1					○		1	1	1	2				兼1	
	医用工学	1後	1			○				1							兼1	
	医用工学演習	2前	1				○			1			2				兼1	
	コンピュータ演習Ⅰ（データ処理）	2前		1			○										兼1	
	コンピュータ演習Ⅱ（プログラミング）	2後		1			○										兼1	
	医療情報システム論	3前	1			○					1						兼1	
	医用X線機器工学	1後	2			○				1							兼1	
医療安全管理学	4前	2			○				1							兼1		
診療放射線概論	1前	1			○				1							兼1		

教育課程等の概要															
(福岡保健医療学部理学療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	文学論	1・2・3・4前		2		○									兼1
	死生学-死を通して生を考える	1・2・3・4前		2		○									兼1
	演劇論	1・2・3・4後		1		○									兼1
	心理学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	哲学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	コミュニケーション概論	1・2・3・4前		2		○									兼1
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	2・3・4前		2		○									兼7
	人間学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	倫理学	1・2・3・4後		2		○									兼1
	宗教学	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本近現代史	1・2・3・4後		2		○									兼1
	文化人類学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	教育学	1・2・3・4後		2		○									兼1
	経済の仕組み	1・2・3・4後		2		○									兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ (講義)	2・3・4前		1		○					1				兼5
	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)	2・3・4通		1				○							兼2
	社会学	1・2・3・4後			2		○								兼1
	世界遺産と国際文化政策	1・2・3・4前			2		○								兼1
	国際関係論	1・2・3・4前			2		○								兼1
	ボランティア論	1・2・3・4後			2		○								兼4
	国際医療福祉論	1・2・3・4後			2		○								兼19
	組織運営管理論	1・2・3・4前			2		○								兼1
	日本国憲法	1・2・3・4前			2		○								兼1
	法学	1・2・3・4前			2		○				1				
	社会保障制度論	1・2・3・4前			2		○								兼1
	統計学	2後		2			○				1				
	物理学	1・2・3・4前			2		○				1				
	コンピューターの基礎	1・2・3・4前			2		○				1				
	生命倫理	1・2・3・4後			2		○								兼1
	医学/医療史	1・2・3・4前			2		○								兼7
	数学	1・2・3・4後			2		○				1				
	生物学	1・2・3・4前			2		○				1				
	大学入門講座Ⅰ (基礎)	1前		1			○								兼6
	大学入門講座Ⅱ (展開)	1・2・3・4後			1		○								兼6
	メディカルマナー入門	1・2・3・4前			2		○								兼2
	医療福祉教養講義	1・2・3・4後			1		○								兼1
	郷土論-大川学	1・2・3・4前			1		○								兼1
	医学英語Ⅰ (入門)	1前		1			○					1			留学生は選択
	医学英語Ⅱ (応用)	1後		1			○					1			留学生は選択
	英会話	1後		1			○								兼5
	中国語	1・2・3・4通			2		○								兼1
	韓国語	1・2・3・4通			2		○								兼2
実用英会話	2前			1		○								兼4	
実用中国語会話	2前			1		○								兼1	
実用韓国語会話	2前			1		○								兼2	
資格英語Ⅰ (Primary)	1・2・3・4前			1		○					1				
資格英語Ⅱ (Basic)	1・2・3・4後			1		○					1				
留学生用日本語科目	作文・読解Ⅰ (入門)	1・2・3・4前		1		○									兼1
	作文・読解Ⅱ (応用)	1前		1		○									兼1
	作文・読解Ⅲ (完成)	1・2・3・4後		1		○									兼1
	文法・語彙Ⅰ (入門)	1・2・3・4前		1		○									兼1
	文法・語彙Ⅱ (応用)	1前		1		○									兼1
	文法・語彙Ⅲ (完成)	1・2・3・4前		1		○									兼1
	発表・討論Ⅰ (応用)	1前		1		○									兼1
	発表・討論Ⅱ (完成)	1・2・3・4後		1		○									兼1
	医療福祉専門漢字	1前		1		○									兼1
	医療福祉専門語彙	1後		1		○									兼1
日本語基礎Ⅰ (初級)	1・2・3・4後			1		○								兼1	
日本語基礎Ⅱ (初級)	1・2・3・4後			1		○								兼1	
健康科学理論	1・2・3・4後			1		○								兼1	
小計 (60科目)			8	82	2					1	1	1		兼77	

専門教育	学部共通 専門基礎科目	保健医療福祉制度論	1・2・3・4前	2	2	○															兼1		
		臨床心理学概論	2前	2			○															兼1	
		公衆衛生学	1・2・3・4後		2			○														兼1	
		リスクマネジメント論	3・4後		2			○														兼5	共同
		救急医学	2・3・4前		1			○														兼2	共同
		リハビリテーション概論	1前	2				○			1											兼2	共同
		関連職種連携論	2後	2				○			1	1										兼11	共同
		ケアマネジメント論	1・2・3・4前		1			○														兼1	共同
		関連職種連携ワーク	3前	1					○			5	2	2	3							兼22	共同
		関連職種連携実習	4前		1					○		1		1	2							兼14	共同
		解剖学Ⅰ（循環器系、消化器系、呼吸器系）	1前	1				○														兼1	
		解剖学Ⅱ（神経系、内分泌系、生殖器系）	1後	1				○														兼1	
		解剖学実習Ⅰ（肉眼）	1前	1					○			5	1									兼1	共同
		解剖学実習Ⅱ（組織）	1後	1					○			1	1	2	2							兼1	共同
		生理学Ⅰ（植物性功能）	1前	1				○			1												
		生理学Ⅱ（動物性功能）	1後	1				○			1												
		生理学実習	1前	1					○		1											兼1	共同
		病理学	2後	1																		兼1	
		臨床医学概論	1前	1				○														兼1	
		内科学Ⅰ（基礎）	2・3前	1				○														兼1	
		内科学Ⅱ（臨床）	2・3後	1				○														兼1	
		神経学Ⅰ（基礎）	2・3前	1				○														兼1	
		神経学Ⅱ（臨床）	2・3後	1				○														兼1	
		整形外科Ⅰ（基礎）	2・3前	1				○														兼1	
		整形外科Ⅱ（臨床）	2・3後	1				○														兼1	
		精神医学Ⅰ（総論・各論）	2・3後	1				○														兼1	
		精神医学Ⅱ（各論）	2・3前		1			○														兼1	
		リハビリテーション医学	1後	1				○														兼1	
		小児科学	2・3前	1				○														兼1	
		老年学	2・3後	1				○														兼1	
		薬理学	1・2・3・4後		1			○														兼1	
		栄養学	1・2・3・4後		1			○														兼1	
		人間発達学	1後	1				○			1											兼1	
		カウンセリング論	1・2・3・4前		1			○														兼1	
		運動学Ⅰ（基礎）	1前	1				○				1											
		運動学Ⅱ（応用）	1後	1				○				1											
		運動生理学	1後	1				○			1			2	1								共同
		運動学実習Ⅰ（基礎）	2前	1					○			1	1	1	2	2							共同
		運動学実習Ⅱ（応用）	2後	1					○		1			2	1								共同
小計（39科目）		32	13	0		—			2	5	2	2	3								兼49		
専門教育	専門科目	理学療法概論	1前	1			○			1	5	2	2	3								共同	
		PTスキルⅠ演習（課題発表・PBL）	1前	1			○				3	1		1									共同
		PTスキルⅡ演習（課題学習・口頭試問）	2後	1			○			2	2	1	2	2									共同
		PTスキルⅢ演習（課題学習）	3前	1			○			2	2	1	2	2									共同
		PTスキルⅣ演習（口頭試問・OSCE・CBT）	3前	2			○			1													
		病態運動学	3前	1			○				1												
		運動解剖学	1前	1			○				3	1	1	1									共同
		理学療法用語論	1前	1			○				1												
		バイオメカニクス	1後	1			○				1												
		理学療法評価学	1後	1			○				1												
		理学療法診断学Ⅰ（基礎）	2前	2			○						1	1	3								共同
		理学療法診断学Ⅱ（疾患編）	2前	1			○					2											共同
		理学療法診断学Ⅲ（神経診断学）	2前	1			○					2			2								共同
		理学療法診断学Ⅳ（電気診断学）	2・3・4後		1			○				1											
		高次脳機能障害学	2・3・4後		1			○				1											
		物理療法学Ⅰ（基礎）	2前	1				○						1									
		物理療法学Ⅱ（応用）	2後	1				○						1									
		運動療法学総論	2後	2				○						1									
		生活技術学	2前	2				○				1											
		生活環境学	2前	2				○				1											
		義肢学	2後	2				○				1										兼1	
		装具学	2前	2				○						1									
		理学療法治療総論	3前	1				○			1	1		1									共同
		運動系理学療法学Ⅰ（基礎）	3前	2				○						1									
		運動系理学療法学Ⅱ（応用）	3前	2				○						1									共同
		神経系理学療法学Ⅰ（脳血管）	3前	2				○				1											
		神経系理学療法学Ⅱ（神経筋）	3前	2				○				1											
		小児理学療法学	2後	2				○			1												
		呼吸器系理学療法学	3前	2				○				1											
		循環器系理学療法学	3前	1				○			1				1								共同
		代謝系理学療法学	3前	1				○			1			1									共同
地域理学療法学演習（在宅・地域）	3前	2				○				1													
老人理学療法学	2後	1				○				1													
スポーツ理学療法学	3・4前		1			○															兼2		
障害者スポーツⅠ（入門）	1・2・3・4前		1			○			1				1									共同	
障害者スポーツⅡ（応用）	3・4前		1			○			1				1									共同	
癌のリハビリテーション	2・3・4後		1			○			1					1								共同	
福祉住環境論	3・4前		1			○				1													

専門教育 (つづき)	専門科目 (つづき)	理学療法技術学	3・4前		1		○			2		2			共同
		理学療法特論Ⅰ(基礎)	4後	1			○		1	1	1				共同
		理学療法特論Ⅱ(総合)	4後	1			○		1	5	2	2	3		共同
		卒業研究	4後		4		○		1	5	2	2	3		共同
		基礎実習	1後	1				○	1	5	2	2	3		共同
		検査実習	2～3後	1				○	1	5	2	2	3		共同
		評価実習	3後	1				○	1	5	2	2	3		共同
		臨床実習Ⅰ(入門)	3後～4前	8				○	1	5	2	2	3		共同
		臨床実習Ⅱ(応用)	4前	8				○	1	5	2	2	3		共同
		小計(47科目)		66	12	0		—		2	5	2	2	3	兼3
合計(146科目)			106	107	2		—	3	7	3	2	3	兼112		
学位又は称号		学士(理学療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
卒業要件 124単位 ①総合教育 必修8単位 ②総合教育 選択13単位 ③専門基礎 必修32単位 ④専門 必修66単位 ⑤専門教育 選択5単位								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

資料4

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要

(保健医療学部 放射線・情報科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間系	文学論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	演劇論	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	心理学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	哲学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	コミュニケーション概論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	2・3・4前		2		○									兼7	メディア授業
	人間学	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	歴史学	1・2・3・4前		2		○									兼1	メディア授業
	倫理学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	宗教学	1・2・3・4後		2		○									兼1	メディア授業
	日本近現代史	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	文化人類学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	教育学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	死生学-死を通して生を考える-	1・2・3・4後		2		○									兼1	
生きがい論	1・2・3・4前		2		○									兼1		
総合教育科目 社会系	法学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	法と道徳・倫理	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	社会学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本政治経済論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	マスメディア論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	福祉経済学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	アジア諸国の経済・社会・文化	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	国際関係論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	世界の経済	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	国際医療福祉論	1・2・3・4後		2		○									兼18	メディア授業
	組織運営管理論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	海外保健福祉事情	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	社会保障制度論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	ボランティア論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	ボランティアコーディネート論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	手話入門	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	将棋で養う社会力	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経済の仕組み	1・2・3・4前		2		○									兼1	
経済の歴史	1・2・3・4後		2		○									兼1		
世界遺産と国際文化政策	1・2・3・4前		2		○									兼1	メディア授業	
自然・情報系	統計学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	疫学・保健医療統計学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	数学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	物理学	1・2・3・4後		2		○				1						
	化学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	生物学	1前		2		○									兼1	
	コンピュータの基礎	1後	2			○				1						
	情報処理Ⅰ(初歩)	1・2・3・4前		1		○									兼1	
	情報処理Ⅱ(基礎)	1前	1			○									兼2	
	情報処理Ⅲ(応用)	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	生命倫理	1・2・3・4前		2		○									兼11	
	医学/医療史	1・2・3・4前		2		○									兼8	メディア授業
人間工学	1・2・3・4前		2		○									兼2		

総合系	大学入門講座Ⅰ（基礎）	1前	1		○														兼16	メディア授業 メディア授業		
	大学入門講座Ⅱ（展開）	1・2・3・4前	1		○														兼6			
	郷土論～栃木学～	1・2・3・4前	1		○														兼1			
	医療福祉教養講義	1・2・3・4後	1		○														兼4			
	メディカルマナー入門	1・2・3・4前	2		○														兼2			
	総合講義～超高齢社会とジェロントロジー～	1・2・3・4後	1		○														兼9			
	食と人間	1・2後	1		○														兼1			
	人間と性	1・2・3・4前	1		○														兼6			
	持続可能な発展	1・2・3・4前	2		○														兼1			
	文明間の対話	1・2・3・4前	1		○														兼1			
	読書ゼミナール	1・2・3・4前	1		○														兼1			
	現代医療福祉事情	1・2・3・4後	1		○														兼1			
	総合教育科目（つづき） 外国語系	英語講読1（Primary）	1前	1		○															兼2	
		英語講読2（Basic）	1後	1		○															兼2	
英語講読3（Intermediate）		2・3・4前	1		○														兼1			
英語講読4（Advanced）		2・3・4後	1		○														兼1			
英語CALL1（Primary）		1前	1		○														兼2			
英語CALL2（Basic）		1後	1		○														兼2			
英語会話1（Primary）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
英語会話2（Basic）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
英語会話3（Intermediate）		2・3・4前	1		○														兼1			
英語会話4（Advanced）		2・3・4後	1		○														兼1			
聖書英語1（Primary）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
聖書英語2（Basic）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
医学英語1（Primary）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
医学英語2（Basic）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
英語リスニング1（Primary）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
英語リスニング2（Basic）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
英語ライティング1（Primary）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
英語ライティング2（Basic）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
英語医療通訳入門1（Primary）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
英語医療通訳入門2（Basic）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
資格英語1（Primary）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
資格英語2（Basic）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
基礎英文法1（Primary）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
基礎英文法2（Basic）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
上級英語文献講読		1・2・3・4後	1		○														兼1			
上級英語会話1（発展）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
上級英語会話2（総合）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
英語文化史1（Primary）		2・3・4前	1		○														兼1			
英語文化史2（Basic）		2・3・4後	1		○														兼1			
海外研修英語		2・3・4後	1		○														兼1			
フランス語初級1（基礎）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
フランス語初級2（基礎）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
ドイツ語初級1（基礎）		1・2・3・4前	1		○														兼1			
ドイツ語初級2（基礎）		1・2・3・4後	1		○														兼1			
ドイツ語中級1（応用）	1・2・3・4前	1		○														兼1				
ドイツ語中級2（応用）	1・2・3・4後	1		○														兼1				
ドイツ語上級1（発展）	1・2・3・4前	1		○														兼1				
ドイツ語上級2（発展）	1・2・3・4後	1		○														兼1				
スペイン語初級1（基礎）	1・2・3・4前	1		○														兼1				
スペイン語初級2（基礎）	1・2・3・4後	1		○														兼1				
中国語初級1（基礎）	1・2・3・4前	1		○														兼1				
中国語初級2（基礎）	1・2・3・4後	1		○														兼1				
中国語中級1（応用）	1・2・3・4前	1		○														兼1				
中国語中級2（応用）	1・2・3・4後	1		○														兼1				
韓国語初級1（基礎）	1・2・3・4前	1		○														兼1				
韓国語初級2（基礎）	1・2・3・4後	1		○														兼1				
韓国語中級1（応用）	1・2・3・4前	1		○														兼1				
韓国語中級2（応用）	1・2・3・4後	1		○														兼1				

総合教育科目(つづき)	外国語	韓国語上級1(発展)	1・2・3・4前	1		○													兼1	
		韓国語上級2(発展)	1・2・3・4後	1		○													兼1	
	保健系	健康科学理論	1・2・3・4前	1		○													兼3	メディア授業
		健康科学実践	1・2・3・4前	1			○												兼8	
		小計(114科目)	—	8	154	0	—		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	130	
専門基礎(学部共通)		公衆衛生学	1前	2			○												兼1	
		救急医学	3後	1			○												兼1	
		微生物と病気	1・2・3・4後	2			○												兼1	
		リハビリテーション概論	1・2・3・4後	2			○												兼1	
		関連職種連携論	2後	2			○			1	1								兼2	
		看護論	1後	2			○												兼9	
		ケアマネジメント論	2・3・4前	1			○												兼1	
		ケースワーク論	1・2・3・4後	1			○												兼1	
		医療管理学	1・2・3・4前	2			○												兼1	
		保健医療福祉制度論	1・2・3・4前	2			○												兼1	
		社会福祉学	1・2・3・4後	2			○												兼1	
		臨床心理学概論	1・2・3・4前	2			○												兼1	
		医療情報学概論	2・3後	2			○												兼1	
		福祉支援工学概論	1・2・3・4前	2			○												兼2	
		関連職種連携ワーク	3前	1				○											兼3	
		関連職種連携実習	4前	1					○	1									兼2	
		リスクマネジメント論	3・4前	2			○												兼6	メディア授業
		電子カルテによるチーム医療概論	2・3・4後	2			○												兼1	
		エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	2・3・4前	1			○												兼1	
		レクリエーション概論	2・3・4後	1			○												兼1	
	専門教育科目	専門基礎	数学Ⅰ(基礎)	1前	1			○												
数学Ⅱ(微積分学)			1後	1			○													
自然科学入門			1前	2			○			1		1								
基礎物理学			1後	1			○			1										
基礎化学			1後	1			○					1								
基礎生物学			1後	1			○													兼1
解剖学Ⅰ(運動器系・循環器系・内臓系)			1前	1			○													兼1
解剖学Ⅱ(内臓系・神経系・感覚器系)			1後	1			○													兼1
生理学			1後	2			○													兼1
病理学			2前	2			○													兼1
病態生理学			2後	1			○			1										
医学概論			1前	2			○													兼1
看護概論			3前	1			○													兼4
放射線救急医学			3前	2			○			1										
総合科学実験Ⅰ(入門)			1前	1					○	1	2	2								
総合科学実験Ⅱ(基礎)			1後	1					○	2	1	2								
	小計(36科目)	—	26	28	0	—		4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	41		
専門	専門	応用数学	2前	1			○													
		放射線物理学Ⅰ(基礎)	1後	1			○													
		放射線物理学Ⅱ(発展)	2前	1			○													
		放射線計測学Ⅰ(基礎)	2前	1			○						1							
		放射線計測学Ⅱ(応用)	2後	1			○						1							
		放射線計測学実験	2後	1				○	2	1	2									
		放射化学Ⅰ(基礎)	2後	1			○						1							
		放射化学Ⅱ(応用)	3前	1			○						1							
		放射化学実験	4前	1				○	1	1	2									
		放射線生物学	2前	1			○													兼1
		画像解剖学	2後	1			○			1										
		臨床画像解剖学	3前	1			○			1										
		画像情報学Ⅰ(感光理論・処理)	1後	2			○					1								
		画像情報学Ⅱ(画質評価)	2前	2			○					2								
		画像情報学実験	1後	1				○			3	1	1							
		医用工学	1後	1			○			1										
医用工学演習	2前	1				○		3	1											
コンピュータ演習Ⅰ(データ処理)	2前	1				○		1	1											

専門教育科目(つづき)	コンピュータ演習Ⅱ(プログラミング)	2後	1			○		1									
	医療情報システム論	4前	1			○		1									
	医用X線機器工学Ⅰ(X線発生システム)	1後	1			○		1									
	医用X線機器工学Ⅱ(X線映像システム)	2前	1			○		1									
	医用X線CT工学	2前	1			○		1									
	医用機器工学実験Ⅰ(一般撮影機器)	2前	1					○	2	2		1					
	医用機器工学実験Ⅱ(CT、MRI)	2後	1					○	1	2	1						
	医療安全管理学	4前	1			○		1			2	1					
	診療放射線概論	1前	1			○		2	1	1	1						
	医用画像検査学概論	1後	1			○		1	2	1	1						
	医用X線検査学Ⅰ(単純撮影)	2前	1			○					1	1					
	医用X線検査学Ⅱ(造影撮影)	2後	1			○		1	1								
	医用X線CT検査学	2後	1			○							1				
	医用磁気共鳴論	2後	1			○						1					
	MRⅠ検査学	3前	1			○						1					
	医用超音波論	2前	1			○		1									
	医用超音波検査学	2前	1			○		1	1								
	医用画像学実験Ⅰ(一般撮影・他)	2前	1					○	1	2	2						
	医用画像学実験Ⅱ(特殊撮影・他)	2後	1					○	2	1	1	1					
	核医学Ⅰ(基礎)	2後	2			○		1									
	核医学Ⅱ(臨床)	3前	2			○						1					
	核医学機器工学	3前	1			○		1									
	核医学実験	3前	1					○	1		3	1					
	放射線治療学Ⅰ(物理・技術)	2後	2			○		1									
	放射線治療学Ⅱ(臨床)	3前	2			○		1									
	放射線治療機器工学	3前	1			○		1									
	放射線治療学実験	3前	1					○	2		1	1					
	臨床医学Ⅰ(基礎)	3前	1			○		1									
	臨床医学Ⅱ(発展)	4前	1			○		1									
	放射線管理学	3前	2			○						3					
	放射線管理学実験	4前	1					○	2		2	1					
	放射線関係法規	4前	1			○		1			1						
	画像診断学	4前	1			○		1									
	画像診断学演習	4後		1		○		1									
	臨床薬理学	4前		1		○										兼1	
	臨床実習概論	3前	1			○		2	1	2							
	臨床実習演習	3前	1				○	2	1	2							
	医用画像臨床実習	3後	6									1					
	核医学臨床実習	3後	2									1					
	放射線治療臨床実習	3後	2									1					
	診療放射線特論	4前	1			○		1					1				
	放射線学演習Ⅰ(基礎)	4前	1			○		1	1	3	1						
	放射線学演習Ⅱ(応用)	4前		1		○		4	2	2							
	放射線学演習Ⅲ(総合)	4後	1			○		4		2							
	放射線学演習Ⅳ(発展)	4後	1			○		1	3	2	1						
	放射線腫瘍特論	4前	1			○		1									
	MRⅠ特論	4前	1			○						1					
	画像情報学特論	4前	1				○			3							
	死亡時画像診断学	4後	1			○		1					1				
	卒業研究Ⅰ(調査・計画)	4前	1				○	7	4	4	1						
	卒業研究Ⅱ(研究報告)	4後	1				○	7	4	4	1						
	小計(69科目)	—	70	13	0	—		7	4	4	1	0	3				
	合計(219科目)		—	104	195	0	—	12	7	6	1	0	174				
	学位又は称号	学士(放射線・情報科学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)									
	及び履修方法							授業期間等									
	総合教育科目のうち必修科目8単位および選択科目から15単位以上、専門教育科目のうち専門基礎必修科目26単位、専門必修科目70単位、および選択科目から5単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:50単位未満/年間)							1学年の学期区分					2期				
								1学期の授業期間					15週				
1時限の授業時間								90分									

【資料5】私立薬科大学（薬学部）在学生（3年生）出身校都道府県別調 6年制（抜粋）

年度	都道府県	大学名	出身県																	
			山口		福岡		佐賀		長崎		熊本		大分		宮崎		鹿児島		沖縄	
			数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
2018 (平成三〇)	九州地方以外		88	80.0%	94	26.0%	27	29.3%	25	26.6%	30	22.6%	13	25.0%	28	32.9%	42	36.8%	73	76.8%
	福岡県	第一薬科大学	5	4.5%	75	20.7%	10	10.9%	5	5.3%	7	5.3%	1	1.9%	6	7.1%	8	7.0%	4	4.2%
	福岡県	福岡大学	12	10.9%	125	34.5%	20	21.7%	15	16.0%	9	6.8%	14	26.9%	11	12.9%	15	13.2%	4	4.2%
	長崎県	長崎国際大学	1	0.9%	25	6.9%	20	21.7%	46	48.9%	9	6.8%	3	5.8%	4	4.7%	9	7.9%	7	7.4%
	熊本県	崇城大学	2	1.8%	29	8.0%	11	12.0%	2	2.1%	61	45.9%	6	11.5%	5	5.9%	14	12.3%	3	3.2%
	宮崎県	九州保健福祉大学	2	1.8%	14	3.9%	4	4.3%	1	1.1%	17	12.8%	15	28.8%	31	36.5%	26	22.8%	4	4.2%
	九州地方 計		22	20.0%	268	74.0%	65	70.7%	69	73.4%	103	77.4%	39	75.0%	57	67.1%	72	63.2%	22	23.2%
合計		110	100.0%	362	100.0%	92	100.0%	94	100.0%	133	100.0%	52	100.0%	85	100.0%	114	100.0%	95	100.0%	
2017 (平成二九)	九州地方以外		77	74.8%	100	27.1%	21	21.4%	20	20.2%	30	24.2%	46	50.0%	32	32.0%	52	42.6%	76	71.0%
	福岡県	第一薬科大学	9	8.7%	79	21.4%	13	13.3%	6	6.1%	8	6.5%	3	3.3%	3	3.0%	13	10.7%	7	6.5%
	福岡県	福岡大学	12	11.7%	115	31.2%	35	35.7%	14	14.1%	8	6.5%	14	15.2%	12	12.0%	18	14.8%	5	4.7%
	長崎県	長崎国際大学	1	1.0%	19	5.1%	22	22.4%	48	48.5%	13	10.5%	6	6.5%	6	6.0%	13	10.7%	7	6.5%
	熊本県	崇城大学	3	2.9%	32	8.7%	5	5.1%	9	9.1%	50	40.3%	6	6.5%	8	8.0%	9	7.4%	4	3.7%
	宮崎県	九州保健福祉大学	1	1.0%	24	6.5%	2	2.0%	2	2.0%	15	12.1%	17	18.5%	39	39.0%	17	13.9%	8	7.5%
	九州地方 計		26	25.2%	269	72.9%	77	78.6%	79	79.8%	94	75.8%	46	50.0%	68	68.0%	70	57.4%	31	29.0%
合計		103	100.0%	369	100.0%	98	100.0%	99	100.0%	124	100.0%	92	100.0%	100	100.0%	122	100.0%	107	100.0%	
2016 (平成二八)	九州地方以外		95	77.9%	111	26.8%	20	22.5%	14	18.4%	35	25.9%	33	46.5%	20	18.9%	62	40.5%	76	80.9%
	福岡県	第一薬科大学	8	6.6%	123	29.7%	22	24.7%	3	3.9%	13	9.6%	7	9.9%	7	6.6%	14	9.2%	9	9.6%
	福岡県	福岡大学	12	9.8%	119	28.7%	23	25.8%	7	9.2%	12	8.9%	12	16.9%	14	13.2%	20	13.1%	3	3.2%
	長崎県	長崎国際大学	1	0.8%	22	5.3%	18	20.2%	45	59.2%	7	5.2%	3	4.2%	5	4.7%	14	9.2%	3	3.2%
	熊本県	崇城大学	5	4.1%	25	6.0%	4	4.5%	5	6.6%	56	41.5%	3	4.2%	13	12.3%	16	10.5%	2	2.1%
	宮崎県	九州保健福祉大学	1	0.8%	14	3.4%	2	2.2%	2	2.6%	12	8.9%	13	18.3%	47	44.3%	27	17.6%	1	1.1%
	九州地方 計		27	22.1%	303	73.2%	69	77.5%	62	81.6%	100	74.1%	38	53.5%	86	81.1%	91	59.5%	18	19.1%
合計		122	100.0%	414	100.0%	89	100.0%	76	100.0%	135	100.0%	71	100.0%	106	100.0%	153	100.0%	94	100.0%	
2015 (平成二七)	九州地方以外		102	77.9%	99	24.0%	14	17.3%	23	25.3%	27	20.3%	32	44.4%	21	19.1%	60	37.7%	85	84.2%
	福岡県	第一薬科大学	9	6.9%	98	23.8%	17	21.0%	5	5.5%	12	9.0%	10	13.9%	8	7.3%	14	8.8%	1	1.0%
	福岡県	福岡大学	16	12.2%	153	37.1%	23	28.4%	18	19.8%	17	12.8%	12	16.7%	16	14.5%	24	15.1%	1	1.0%
	長崎県	長崎国際大学	2	1.5%	24	5.8%	21	25.9%	42	46.2%	3	2.3%	1	1.4%	3	2.7%	10	6.3%	5	5.0%
	熊本県	崇城大学	0	0.0%	24	5.8%	3	3.7%	3	3.3%	64	48.1%	9	12.5%	15	13.6%	20	12.6%	3	3.0%
	宮崎県	九州保健福祉大学	2	1.5%	14	3.4%	3	3.7%	0	0.0%	10	7.5%	8	11.1%	47	42.7%	31	19.5%	6	5.9%
	九州地方 計		29	22.1%	313	76.0%	67	82.7%	68	74.7%	106	79.7%	40	55.6%	89	80.9%	99	62.3%	16	15.8%
合計		131	100.0%	412	100.0%	81	100.0%	91	100.0%	133	100.0%	72	100.0%	110	100.0%	159	100.0%	101	100.0%	

(出所) 日本私立薬科大学協会だより（一般社団法人日本私立薬科大学協会編）第86号、第88号、第90号、第92号

【資料6】

福岡、佐賀、熊本各県の市区町村別薬剤師数

(出典：JMAP地域医療情報システム～日本医師会～)

福岡県市区町村別	国勢調査人口(2015) (A)	薬剤師数 (B)	地域別指標 (B÷A×10万人)
北九州市門司区	99,637	118	118.4
北九州市若松区	82,844	94	113.5
北九州市戸畑区	59,116	85	143.8
北九州市小倉北区	181,878	320	175.9
北九州市小倉南区	212,850	238	111.8
北九州市八幡東区	68,844	148	215.0
北九州市八幡西区	256,117	285	111.3
福岡市東区	306,015	327	106.9
福岡市博多区	228,441	340	148.8
福岡市中央区	192,688	373	193.6
福岡市南区	255,797	315	123.1
福岡市西区	206,868	209	101.0
福岡市城南区	130,995	157	119.9
福岡市早良区	217,877	294	134.9
大牟田市	117,360	182	155.1
久留米市	304,552	415	136.3
直方市	57,146	95	166.2
飯塚市	129,146	160	123.9
田川市	48,441	110	227.1
柳川市	67,777	72	106.2
八女市	64,408	65	100.9
筑後市	48,339	69	142.7
大川市	34,838	30	86.1
行橋市	70,586	98	138.8
豊前市	25,940	29	111.8
中間市	41,796	40	95.7
小郡市	57,983	56	96.6
筑紫野市	101,081	116	114.8
春日市	110,743	109	98.4
大野城市	99,525	110	110.5
宗像市	96,516	102	105.7
太宰府市	72,168	74	102.5
古賀市	57,959	32	55.2
福津市	58,781	59	100.4
うきは市	29,509	35	118.6
宮若市	28,112	24	85.4
嘉麻市	38,743	30	77.4
朝倉市	52,444	67	127.8

みやま市	38,139	34	89.1
糸島市	96,475	104	107.8
那珂川町	50,004	45	90.0
宇美町	37,927	18	47.5
篠栗町	31,210	15	48.1
志免町	45,256	58	128.2
須恵町	27,263	19	69.7
新宮町	30,344	41	135.1
久山町	8,225	11	133.7
粕屋町	45,360	43	94.8
芦屋町	14,208	3	21.1
水巻町	28,997	29	100.0
岡垣町	31,580	24	76.0
遠賀町	18,877	30	158.9
小竹町	7,810	5	64.0
鞍手町	16,007	7	43.7
桂川町	13,496	5	37.0
筑前町	29,306	16	54.6
東峰村	2,174	1	46.0
大刀洗町	15,138	8	52.8
大木町	14,176	16	112.9
広川町	20,183	15	74.3
香春町	10,861	9	82.9
添田町	9,924	5	50.4
糸田町	9,020	11	122.0
川崎町	16,789	17	101.3
大任町	5,176	4	77.3
赤村	3,022	2	66.2
福智町	22,871	16	70.0
苅田町	34,963	35	100.1
みやこ町	20,243	17	84.0
吉富町	6,627	15	226.3
上毛町	7,458	4	53.6
築上町	18,587	13	69.9
福岡県合計	5,101,556	6,176	121.1

佐賀県市区町村別	国勢調査人口 (2015) (A)	薬剤師数 (B)	地域別指標 (B ÷ A × 10万人)
佐賀市	236,372	421	178.1
唐津市	122,785	162	131.9
鳥栖市	72,902	109	149.5
多久市	19,749	23	116.5
伊万里市	55,238	65	117.7
武雄市	49,062	71	144.7
鹿島市	29,684	25	84.2
小城市	44,259	51	115.2
嬉野市	27,336	64	234.1
神埼市	31,842	34	106.8
吉野ヶ里町	16,411	18	109.7
基山町	17,501	14	80.0
上峰町	9,283	6	64.6
みやき町	25,278	27	106.8
玄海町	5,902	3	50.8
有田町	20,148	23	114.2
大町町	6,777	9	132.8
江北町	9,583	11	114.8
白石町	23,941	29	121.1
太良町	8,779	2	22.8
佐賀県合計	832,832	1,167	140.1

熊本県市区町村別	国勢調査人口 (2015) (A)	薬剤師数 (B)	地域別指標 (B ÷ A × 10万人)
熊本市中央区	186,300	414	222.2
熊本市東区	190,451	206	108.2
熊本市西区	93,171	93	99.8
熊本市南区	127,769	195	152.6
熊本市北区	143,131	178	124.4
八代市	127,472	172	134.9
人吉市	33,880	96	283.4
荒尾市	53,407	59	110.5
水俣市	25,411	57	224.3
玉名市	66,782	78	116.8
山鹿市	52,264	56	107.1
菊池市	48,167	45	93.4
宇土市	37,026	27	72.9
上天草市	27,006	24	88.9
宇城市	59,756	75	125.5
阿蘇市	27,018	35	129.5
天草市	82,739	111	134.2
合志市	58,370	51	87.4
美里町	10,333	14	135.5

玉東町	5,265	1	19.0
南関町	9,786	3	30.7
長洲町	15,889	6	37.8
和水町	10,191	4	39.3
大津町	33,452	35	104.6
菊陽町	40,984	41	100.0
南小国町	4,048	1	24.7
小国町	7,187	10	139.1
産山村	1,510	1	66.2
高森町	6,325	10	158.1
西原村	6,802	1	14.7
南阿蘇村	11,503	7	60.9
御船町	17,237	19	110.2
嘉島町	9,054	26	287.2
益城町	33,611	38	113.1
甲佐町	10,717	13	121.3
山都町	15,149	15	99.0
氷川町	11,994	14	116.7
芦北町	17,661	18	101.9
津奈木町	4,673	1	21.4
錦町	10,766	7	65.0
多良木町	9,791	21	214.5
湯前町	3,985	3	75.3
水上村	2,232	1	44.8
相良村	4,468	1	22.4
五木村	1,055	1	94.8
山江村	3,422	1	29.2
球磨村	3,698	1	27.0
あさぎり町	15,523	11	70.9
苓北町	7,739	12	155.1
熊本県合計	1,786,170	2,305	129.0

(略)

【資料8】

診療放射線技師養成校および入学定員(関東地区)

養成校	入学定員
茨城県立医療大学	40
つくば国際大学	80
国際医療福祉大学	120
群馬県立県民健康科学大学	35
群馬パース大学	70
日本医療科学大学	80
杏林大学	60
駒澤大学	60
首都大学東京	40
東京圏 帝京大学	100
北里大学	70
城西放射線技術専門学校	40
中央医療技術専門学校	180
東京電子専門学校	90
東洋公衆衛生学院	74
自衛隊中央病院診療放射線技師養成所	25
順天堂大学	120
東京圏合計	819
東京圏合計(順天堂含む)	939

※第63全国診療放射線技師教育施設協議会 資料1から抜粋

都道府県別診療放射線技師 人口10万人対比表

	2017年人口	病院	診療所	総数	人口10万対	順位
全 国	126,706	44755.4	9457.7	54213.1	42.8	
北海道	5,320	2505.5	495.2	3000.7	56.4	1
青森	1,278	467.5	81.8	549.3	43.0	29
岩手	1,255	402.5	72.7	475.2	37.9	42
宮城	2,323	733.2	205.3	938.5	40.4	38
秋田	996	365.6	70.7	436.3	43.8	22
山形	1,102	365.9	109	474.9	43.1	28
福島	1,882	715	123.4	838.4	44.5	20
茨城	2,892	977.5	194.1	1171.6	40.5	37
栃木	1,957	661.6	156.8	818.4	41.8	34
群馬	1,960	725.6	154.6	880.2	44.9	19
埼玉	7,310	2045.9	398.8	2444.7	33.4	47
千葉	6,246	1890.6	365.3	2255.9	36.1	45
東京都	13,724	4599.4	1327.5	5926.9	43.2	26
神奈川県	9,159	2637.1	524.6	3161.7	34.5	46
新潟	2,267	741.3	195.7	937	41.3	35
富山	1,056	425.4	113.6	539	51.0	5
石川	1,147	479.8	66.5	546.3	47.6	12
福井	779	337.3	56.3	393.6	50.5	6
山梨	823	266.7	33.3	300	36.5	44
長野	2,076	774.2	105.1	879.3	42.4	32
岐阜	2,008	703.5	163.1	866.6	43.2	27
静岡県	3,675	1156.3	307.8	1464.1	39.8	40
愛知	7,525	2323.6	696.6	3020.2	40.1	39
三重	1,800	560.2	126.8	687	38.2	41
滋賀	1,413	436.4	97.4	533.8	37.8	43
京都	2,599	1017.4	165.8	1183.2	45.5	17
大阪	8,823	3404.6	639.7	4044.3	45.8	16
兵庫県	5,503	2019.8	343.6	2363.4	42.9	30
奈良	1,348	520.6	62.8	583.4	43.3	25
和歌山	945	350.2	96.7	446.9	47.3	15
鳥取	565	213.9	18.4	232.3	41.1	36
島根	685	265.8	38	303.8	44.4	21
岡山	1,907	807.6	153.9	961.5	50.4	7
広島	2,829	988.9	209	1197.9	42.3	33
山口	1,383	528.2	71.4	599.6	43.4	24
徳島	743	311.7	43.3	355	47.8	11
香川	967	386.1	82.3	468.4	48.4	9
愛媛	1,364	524.7	69.1	593.8	43.5	23
高知	714	330.5	56.5	387	54.2	4
福岡	5,107	2085.5	334.5	2420	47.4	14
佐賀	824	303.4	92.8	396.2	48.1	10
長崎	1,354	528.6	83.3	611.9	45.2	18
熊本	1,765	703.3	134.3	837.6	47.5	13
大分	1,152	526.3	111.6	637.9	55.4	2
宮崎	1,089	451.6	93	544.6	50.0	8
鹿児島	1,626	696.8	195.9	892.7	54.9	3
沖縄	1,443	492.3	119.8	612.1	42.4	31

※2017年人口は、人口推計(平成29年10月1日)資料から抜粋

※診療放射線技師数は、平成29年医療施設(静態・動態)調査から抜粋

(略)

薬学部カリキュラム・マップ

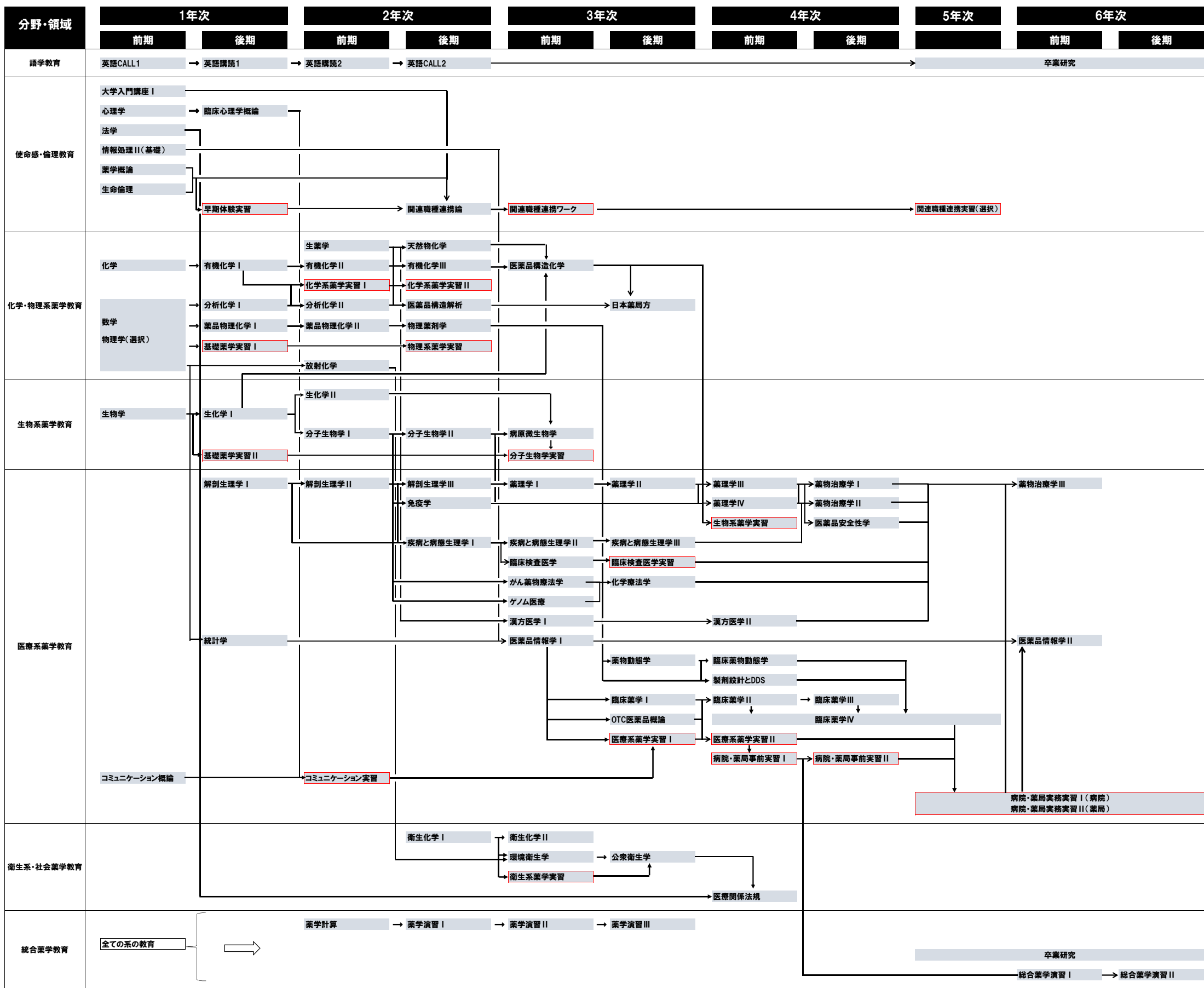
- [注] 1 カリキュラム・マップは、ディプロマ・ポリシーあるいは、求める資質への到達経路を学生に理解させるよう示すものです。
 2 評価対象年度に実施したカリキュラムに対応したカリキュラム・マップを記載してください。

カリキュラムポリシー

- ①薬剤師としての専門知識や技能の習得にとどまらず、多様な学問領域に関心を持ち、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を持つ人材を育成する。
- ②真理や科学の本質を追究するものの考え方の基本を習得し、学問を創造的に追及するとともに将来役立つ知識と技能と態度を身につけ、自ら考えて判断できる問題解決能力を持った人材を育成する。
- ③現在または将来の地域医療の問題、地域社会のニーズを捉えることができ、さらに、視野を広げて国際的な医療問題についても考えることができ、様々な国の人々と連携、協働できる素地を持った人材を育成する。

ディプロマポリシー

- ①医療の領域にとどまらず、社会生活の基本である「ひと」としての基本姿勢(人間性)を養うために、他者を理解し、多方面に関心を持ち、実行し、自己分析・評価することができる。
- ②科学的思考力を持ったくすりの専門職をめざして、基礎薬学・衛生薬学・医療薬学・社会薬学などの知識を身につけ、反復学習し、それを活用(応用)できる。
- ③講義を通して知識を、実習を通して技能を、薬剤師を意識し続けることで態度を習得し、知識・技



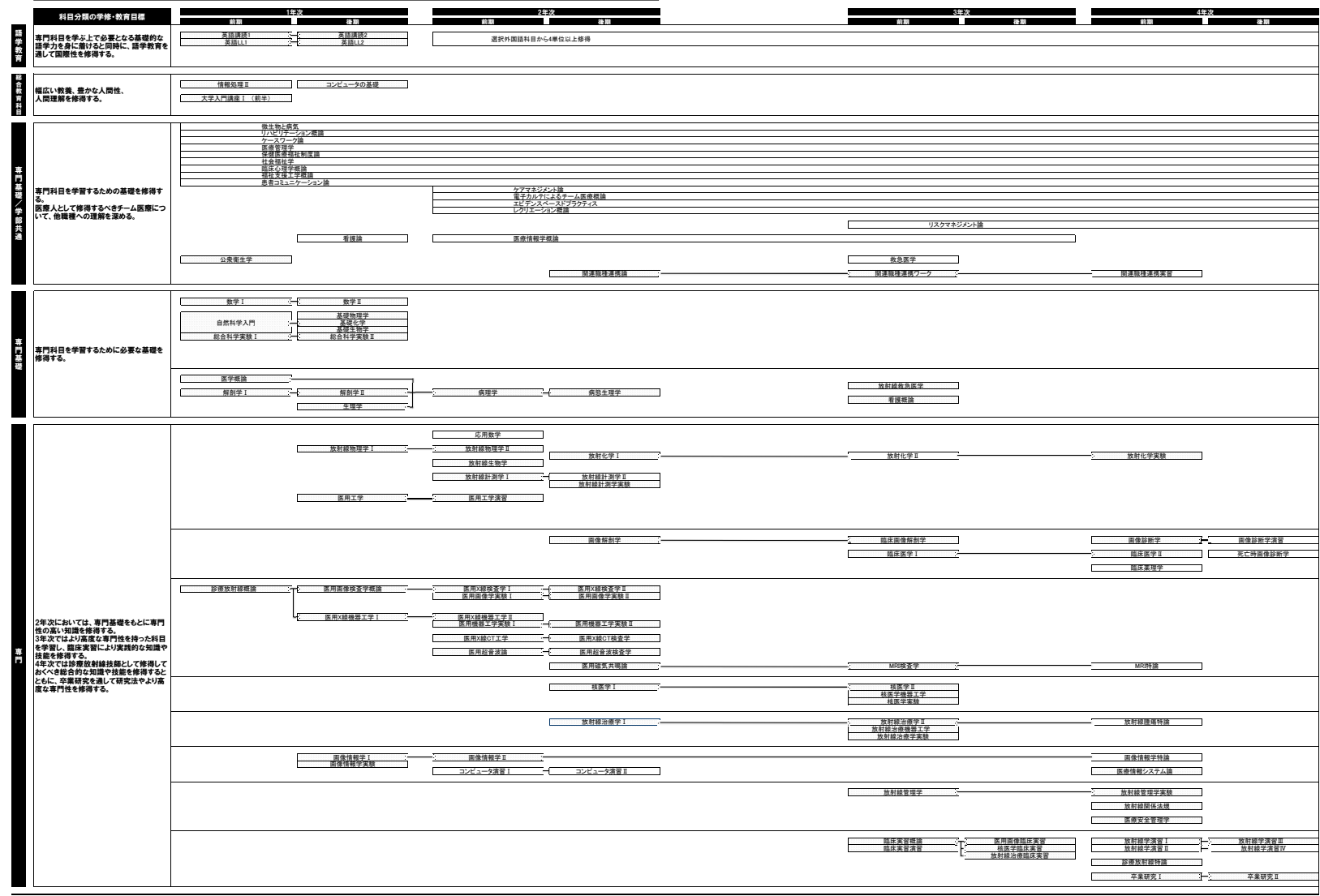
放射線・情報科学科 履修系統図(平成27年度入学生から)

ディプロマポリシー

- ①使命感・倫理観・責任感・思いやりの心などの豊かな人間性を修得することができる。
- ②診療放射線技師の専門知識・技能の修得に加え、真理や本質を追究するものの考え方、学び方の基本を修得することができる。
- ③情報技術に関する体系化された基礎知識を修得し、医療情報システム化の推進役となることができる。

カリキュラムポリシー

- ①診療放射線技師として必要となる豊かな人間性を備えた人材を育成する。
- ②基礎教育を重視し、自ら思考し判断できる能力を備えた人材を育成する。
- ③放射線に関する専門性に加え、医療情報に関する知識、技術を兼ね備えた人材を育成する。



○ 必修科目
□ 選択科目